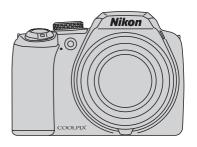
Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX P90

クールピクス P90

使用説明書

商標説明

- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDロゴおよびPictBridgeロゴは商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は以下のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、以下の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
保管注意	**ストラップが首に巻き付かないようにすること** **特に幼児、児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
警告	**指定の電池または専用ACアダプターを使用すること** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠ 注意（カメラについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
保管注意	**使用しないときは、レンズにキャップを付けて太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因になることがあります。 ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因になることがあります。
発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります。
禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**Li-ion リチャージャブルバッテリーEN-EL5は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池で、COOLPIX P90に対応しています。EN-EL5に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーを付けてください。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

保管注意	**電池は幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
使用禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則にしたがって廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（バッテリーチャージャーについて）

 分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
 接触禁止 すぐに 修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出した時は、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 プラグを 抜く すぐに 修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグを抜く際、やけどに充分注意してください。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
 水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
 使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると、火災の原因になります。
 使用禁止	**雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
 禁止	**電源コードを傷つけたり、加工したりしないこと** **また、重いものを載せたり、加熱したり、引っぱったり、むりに曲げたりしないこと** 電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。
 感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。
 禁止	**海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）や DC/AC インバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠注意
（バッテリーチャージャーについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
 放置禁止	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P90をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

マーク	説明
✔	カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
	カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。
✎	カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
📖	関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SDメモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上や電子ビューファインダー内の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略する場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

✎ 内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録が行えます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5 には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のLi-ion リチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故や故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

ホログラムシール

●使用説明書について

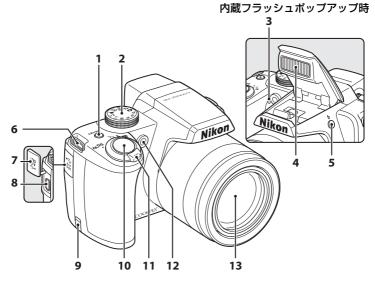
- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDF ファイルをダウンロードすることができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/manual/

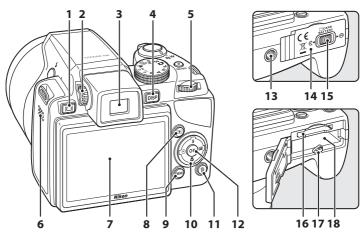
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（□137）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビの近くでお使いになると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しくお取り扱いください。

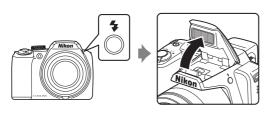
各部の名称

カメラ本体

1	電源スイッチ/電源ランプ ....19、146
2	モードダイヤル 10
3	マイク......................... 80、81、87
4	内蔵フラッシュ .... 7、32
5	⚡（フラッシュポップアップ）ボタン.................................... 7、33
6	ストラップ取り付け部（2カ所）..7
7	端子カバー................. 92、94、98
8	ケーブル接続端子 ..... 92、94、98
9	パワーコネクターカバー.........155
10	シャッターボタン........................28
11	ズームレバー ....27 W：広角ズーム......................27 T：望遠ズーム......................27 ▦：サムネイル表示..............71 🔍：拡大 ....73 ❓：ヘルプ...............................14
12	セルフタイマーランプ...............35 AF補助光...................................145
13	レンズ............................158、172

1	(モニター)ボタン 14
2	視度調節ダイヤル 14
3	電子ビューファインダー.......... 14
4	DISP(表示切り換え)ボタン 15
5	コマンドダイヤル 11
6	スピーカー................ 80、86、89
7	液晶モニター ....8、15、25
8	▶(再生)ボタン 30
9	MENU(メニュー)ボタン ...13、40、82、106、129、136
10	マルチセレクター...................... 12
11	(削除)ボタン .... 30、31、80、86、90
12	OK(決定)ボタン 12
13	三脚ネジ穴
14	バッテリー /SDカードカバー ....18、22
15	ロックレバー ....18、22
16	SDカードスロット 22
17	バッテリーロックレバー ....18、19
18	バッテリー室 18

液晶モニターの角度を変える

液晶モニターの角度を、下向きに45°、上向きに90°動かせます。カメラを高い位置や低い位置に構えて撮影するときなどに便利です。

液晶モニターについてのご注意

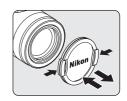
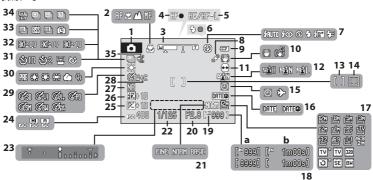
- 液晶モニターの角度を変えるときは、無理な力を加えないでください。
- 液晶モニターは、左右方向には動かせません。
- 通常は、液晶モニターの位置をもとに戻してお使いください。

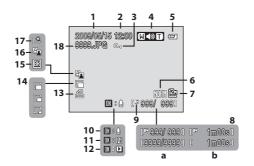
内蔵フラッシュのポップアップと収納

⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押すと、内蔵フラッシュがポップアップします。

- フラッシュを使わないときは、内蔵フラッシュをカチッと音がするまで手で軽く押し下げてください。

ストラップとレンズキャップの取り付け方

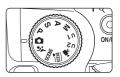
レンズキャップをストラップに取り付けてから、ストラップをカメラに取り付けます（2カ所）。

レンズキャップについて

- 撮影するときはレンズキャップを外してください。
- 電源をOFFにしているときや持ち運び中など、撮影していないときは、レンズキャップをカメラに取り付けてレンズを保護してください。

液晶モニターの表示内容

説明のため、すべての表示を点灯させています。
モニター表示の切り換え方は、15ページをご覧ください。

撮影時

1	撮影モード※	24、40、52、56、60、81
2	フォーカスモード	36
3	ズーム表示	27
4	AF表示	28
5	AE/AF-L表示	51
6	フラッシュ表示	34
7	フラッシュモード	32
8	モーション検知表示	144
9	バッテリーチェック	24
10	手ブレ補正表示（静止画）	25、143
	電子式手ブレ補正表示（動画）	84
11	ゆがみ補正	126
12	アクティブD-ライティング	70
13	AFエリア	28、122
14	AFエリア（顔認識時）	122
15	時計マーク	162
	ワールドタイム	138
16	デート写し込み	142
17	画像サイズ	108
	動画設定	82
18	(a)記録可能コマ数（静止画）	24
	(b)記録可能時間（動画）	81
19	内蔵メモリー表示	25
20	絞り値	61
21	画質	107
22	シャッタースピード	61
23	露出インジケーター	65
24	ISO感度表示	34、116
25	露出補正値	39
26	調光補正	125
27	ノイズ低減	126
28	カラー同時記録	113
29	仕上がり設定	111
30	ホワイトバランス	114
31	セルフタイマー	35
	笑顔自動シャッター	54
	目つぶり軽減	55
32	ブラケティング	121
33	連写モード	118
34	高速連写設定	58
35	先取り撮影	58、59

※ 撮影モードによって表示されるアイコンが異なります。

再生時

1	撮影日..20	10	音声メモガイド（録音）.............80
2	撮影時刻.....................................20	11	音声メモガイド（再生）.............80
3	プロテクト表示.........................132	12	動画再生ガイド............................86
4	音量表示............................80、86	13	プリント指定表示....................103
5	バッテリーチェック...................24	14	スモールピクチャー..........77、78
6	画質※...107	15	黒フレーム済み表示...................79
7	画像サイズ※...............................108 動画設定※.......................................82	16	D-ライティング済み表示...........76
8	(a)画像の番号/全画像数............30 (b)動画の再生時間.....................86	17	簡単レタッチ済み表示...............75
9	内蔵メモリー表示.......................30	18	ファイル名...............................156

※ 撮影時の設定によって表示されるアイコンが異なります。

主なボタン操作とヘルプの使い方

モードダイヤル

モードダイヤルを回して、使用するモードのアイコン（図記号）を指標に合わせます。

（オート撮影）モード（🕮24）

細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

スポーツ連写モード（🕮56）

シャッターボタンの全押しを続けている間、高速で連写（連続撮影）できます。

SCENE（シーン）モード（🕮40）

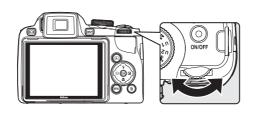
撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った撮影ができます。音声のみを録音する音声レコード機能も選べます。

P、S、A、Mモード（🕮60）

シャッタースピードや絞りなどを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。

U1、U2 ユーザーセッティングモード（🕮67）

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**で設定した内容を登録できます。登録すると、このモードに切り換えるだけで、よく使う設定で撮影できます。

（動画）モード（🕮81）

動画を撮影できます。

おまかせシーンモード（🕮52）

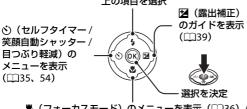
構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動的に判別するので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。

コマンドダイヤル

コマンドダイヤルを回すと、メニュー画面で項目を選んだり、以下の機能の設定や選択ができます。

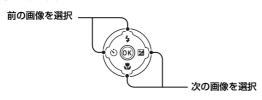
撮影時に使う

状態	操作	内容	
モードダイヤルが**P**のとき		プログラムシフト量の変更	62
モードダイヤルが**S**のとき		シャッタースピードの変更	63
モードダイヤルが**A**のとき		絞り値の変更	64
モードダイヤルが**M**のとき		シャッタースピードまたは絞り値の変更（変更する項目はマルチセレクターの▶を押して切り換えます。）	65

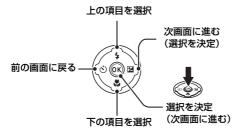
再生時に使う

状態	操作	内容	
1コマ表示またはサムネイル表示		画像の選択	30、71
カレンダー表示		日付の選択	72
拡大表示		拡大倍率の変更	73
動画、音声データ再生中		早送り/巻き戻し	86、90

マルチセレクター

モードやメニューを選んで決定するときは、マルチセレクターを使います。

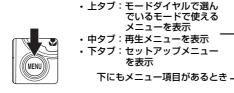
撮影時に使う

再生時に使う

メニュー画面で使う

マルチセレクターの使い方の記載について

本書ではマルチセレクターの上、下、左、右の各操作部を▲、▼、◀、▶と表記する場合があります。

MENU（メニュー）ボタン

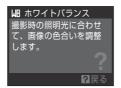
MENUボタンを押すと、メニューを表示して、メニュー項目を設定できます。

- 各メニュー項目を設定するには、マルチセレクターを使います（📖12）。
- コマンドダイヤルを回しても、メニュー項目を選べます。
- 左側のタブを選ぶと、各メニュー項目を表示できます。
- メニュー表示を終了するには、もう一度MENUボタンを押します。

Ⓚボタンを押す、またはマルチセレクターの▶を押すと、選んだ項目の設定画面を表示します。

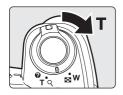
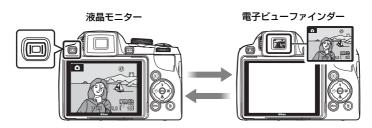
Ⓚボタンを押す、またはマルチセレクターの▶を押すと、設定が確定します。

タブの切り換え方法

マルチセレクターの◀を押してタブに入ります。

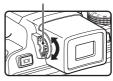
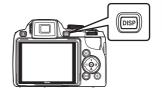
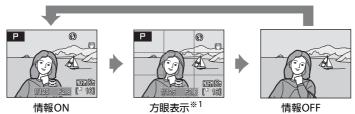
マルチセレクターの▲▼を押してタブを選び、Ⓚボタンまたは▶を押します。

選んだタブのメニューが表示されます。

ヘルプの表示方法

メニュー画面の下に?が表示されているときにズームレバーを**T**（❓）方向に回すと、選んでいる項目の説明（ヘルプ）を表示できます。
メニュー画面に戻るには、もう一度ズームレバーを**T**（❓）方向に回します。

▭（モニター）ボタン

▭（モニター）ボタンを押すたびに、液晶モニターまたは電子ビューファインダーのどちらかにモニター表示が切り換わります。明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは電子ビューファインダーを使用するなど、撮影状況に合わせて切り換えてください。

電子ビューファインダーの視度調節について

電子ビューファインダーの視度が合わず、表示が見えにくいときは、視度調節ダイヤルで視度を調節できます。ファインダーをのぞきながら、表示が最もはっきり見える位置まで視度調節ダイヤルを回してください。
視度調節ダイヤルを操作するときは、爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

DISP（表示切り換え）ボタン

DISP（表示切り換え）ボタンを押すたびに、撮影時や再生時に液晶モニターに表示する情報の切り換えができます。

撮影時

情報ON
撮影画像と撮影情報を表示します。

方眼表示※1
構図を決めるための格子状のガイドを表示します。

情報OFF
撮影画像だけを表示します。

再生時

画像情報ON
再生画像と画像情報を表示します。

撮影情報ON
（動画は除く）
ハイライト表示※2とヒストグラム※3、撮影情報※4を表示します。

情報OFF
再生画像だけを表示します。

※1 モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**のときのみ可能です。

※2 画像の中の非常に明るい部分（ハイライト部分）を点滅表示します。露出補正などで画像の明るさを調整する際の目安になります。

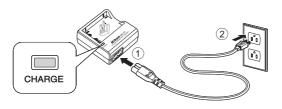
※3 ヒストグラムとは、明るさの分布を表す山状のグラフのことです。横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。

※4 ここで表示される撮影情報は、フォルダー名、ファイル名、撮影モード **P**、**S**、**A**、**M**、シャッタースピード、絞り値、露出補正値、ISO感度、画像番号/全画像数です。撮影モードが、、**SCENE**、、、**P**のときには**P**と表示されます。

バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池）を、付属のバッテリーチャージャー MH-61（充電器）で充電します。

1 電源コードを①、②の順に接続する

- CHARGEランプが点灯します。

2 バッテリーを奥に押し込みながら ①、バッテリーチャージャーにセットする②

- CHARGEランプが点滅し、充電が始まります。
- CHARGEランプが点灯したら、充電完了です。
- 残量がないバッテリーの場合、充電時間は約2時間です。

CHARGEランプの状態と意味は以下のとおりです。

CHARGEランプ	意味
点滅	バッテリーは充電中です。
点灯	バッテリーの充電が完了しました。
速い点滅	• バッテリーのセットミスです。バッテリーを取り外して、バッテリーチャージャーに寝かせるようにセットし直してください。 • 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が5～35℃の室内で充電してください。 • バッテリーの異常です。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて充電を中止してください。バッテリーおよびバッテリーチャージャーは、ご購入店またはニコンサービス機関にお持ちください。

3 充電が完了したら、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外し、電源プラグをコンセントから抜く

バッテリーチャージャーについてのご注意

- 付属のバッテリーチャージャーは、ニコンLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5以外には使えません。
- バッテリーチャージャーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」(□v)、「注意」(□v)の注意事項を必ずお守りください。
- バッテリーチャージャーの電源コードは、MH-61 以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用(AC 100 V対応)です。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ(ニコンダイレクト)http://shop.nikon-image.com/でもお求めいただけます。

バッテリーについてのご注意

- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、必ず「安全上のご注意」の「危険」(□iv)、「警告」(□iv)、「注意」(□iv)の注意事項をお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」(□160)をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。

AC電源について

別売のACアダプター EH-62A(□155)を使うと、家庭用コンセント(AC 100 V)からこのカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

バッテリーを入れる

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー（リチウムイオン充電池）EN-EL5をカメラに入れます。

• ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してからお使いください（□16）。

1 バッテリー /SDカードカバーを開ける

2 バッテリーを入れる

• バッテリー室内の表示を見ながら、＋と－を正しい向きで入れてください。
• バッテリーでオレンジ色のバッテリーロックレバーを押し下げながら①、奥まで差し込みます②。奥まで差し込むと、バッテリーロックレバーでバッテリーが固定されます。

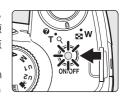
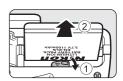
逆挿入に注意

バッテリーの向きを間違えると、カメラを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

• カバーを閉じ①、ロックレバーを▸⊖側にスライドさせます②。

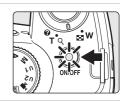
バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにし、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けてください。
オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと①、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜いてください②。

- カメラを使った直後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

電源をON/OFFするには

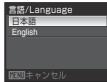
レンズキャップを外してから、電源をONにします。
電源スイッチを押すと、電源がONになります。電源ランプ（緑色）が一瞬点灯した後、液晶モニターが点灯します。
電源ランプ（緑色）または液晶モニターが点灯しているときに、電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。

- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（□30）。
- ［**レンズエラー**］が表示されたときは、レンズキャップが外れていることを確認して、電源を入れ直してください。

撮影時の節電機能について

カメラを操作しない状態が約1分（初期設定）続くと、液晶モニターが自動的に消灯して待機状態になります。そのまま約3分経過すると、電源が自動的にOFFになります（オートパワーオフ機能）。
待機状態で液晶モニターが消灯しているときは、電源スイッチまたはシャッターボタンを押すと、液晶モニターが点灯します。

- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（□135）の［**オートパワーオフ**］（□146）で変更できます。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

- 電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。
- レンズキャップは外してください。

2 マルチセレクターで表示言語を選び、Ⓚボタンを押す

- マルチセレクターの使い方→📖12

3 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 日時設定を中止するときは［**いいえ**］を選びます。

4 ◀または▶を押して自宅のあるタイムゾーン（都市名）（📖140）を選び、Ⓚボタンを押す

夏時間を設定する

夏時間（サマータイム）が現在実施されているときは、手順4の地域設定画面で▲を押して夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部に夏時間マークが表示されます。オフにするときは、▼を押してください。

5 日時を合わせる

- ▲ または ▼ を押してカーソルのある項目を合わせます。
- ▶ を押すと、カーソルは［**年**］→［**月**］→［**日**］→［**時**］→［**分**］→［**年月日**］（日付の表示順）に移動します。
- ◀を押すと、前のカーソルに移動します。

6 年月日の表示順を選ぶ

7 レンズキャップが外れていることを確認して、Ⓚボタンを押す

- 設定が有効になり、撮影画面になります。
- このときレンズが繰り出します。

設定した日時を変更する

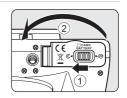
- すでに設定した日時を変更するときは、セットアップメニュー（📖135）の［**日時設定**］（📖138）で［**日時**］を選び、上記の手順5から設定してください。
- 地域（タイムゾーン）や夏時間の設定を変更するときは、セットアップメニューの［**日時設定**］から［**ワールドタイム**］を選んで設定してください（📖138）。

SDカードを入れる

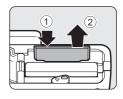
撮影または録音したデータは、カメラの内蔵メモリー（約47 MB）、または市販のSDカード（□155）のどちらかに記録されます。

カメラにSDカードを入れると、SDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出してください。

1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開ける

- バッテリー /SDカードカバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 挿入後、バッテリー /SDカードカバーを閉めてください。

逆挿入に注意

SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

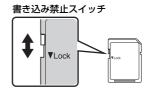
SDカードを取り出すときは

電源をOFFにし、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開けてください。

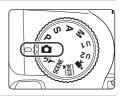
カードを指で軽く奥に押し込むと①、カードが押し出されます。まっすぐ引き抜いてください②。

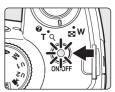
SDカードの初期化

このカードは初期化されていません。
初期化しますか？
いいえ
はい

電源をONにしたときに右の画面が表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化（🕮147）すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。
マルチセレクターで［**はい**］を選び、Ⓚボタンを押してください。確認画面が表示されたら［**初期化する**］を選び、Ⓚボタンを押すと初期化が始まります。

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化（🕮147）してからお使いください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

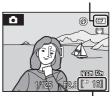
SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

SDカードの取り扱い上のご注意

- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

ステップ1　電源をONにして（オート撮影）を選ぶ

（オート撮影）モードでは、細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

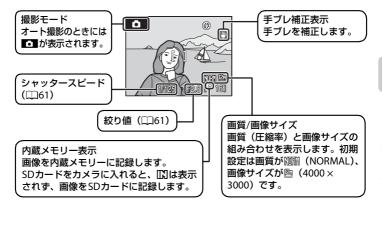
1 モードダイヤルをに合わせる

2 レンズキャップを外して、電源スイッチを押す

- 電源がONになり、レンズが繰り出します。
- 電源ランプ（緑色）が一瞬点灯し、液晶モニターが点灯します。

3 液晶モニターでバッテリー残量と記録可能コマ数を確認する

記録可能コマ数

バッテリー残量

モニター表示	内容
表示なし	バッテリー残量は充分にあります。
	バッテリー残量が少なくなりました。バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
電池残量がありません	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。

記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量、画質、画像サイズによって異なります（109）。

簡単な撮影と再生―オート撮影モードを使う

📷（オート撮影）モードでの液晶モニター表示

フラッシュについて

内蔵フラッシュを閉じているときは発光禁止に固定され、画面上部に⊛が表示されます。暗いところや逆光などフラッシュが必要なときは、内蔵フラッシュをポップアップしてください（📖33）。

📷（オート撮影）モードで使用可能な機能について

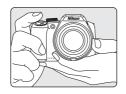
📷（オート撮影）モードではフラッシュモード（📖32）の変更、セルフタイマー（📖35）、フォーカスモード（📖36）、および露出補正（📖39）の設定ができます。また、📷（オート撮影）モードのときにMENUボタンを押すと、撮影メニューの［**画質**］（📖107）と［**画像サイズ**］（📖108）を設定できます。

手ブレ補正について

［**手ブレ補正**］（📖143）を［**ON**］（初期設定）にすると、望遠側での撮影やスローシャッター撮影時におこりがちな手ブレを効果的に補正できます。
三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

ステップ2　カメラを構え、構図を決める

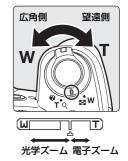
1　カメラをしっかりと構える

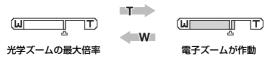
- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- レンズやAF補助光、マイク、スピーカーなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。

2　構図を決める

- 写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。

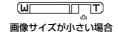
電子ビューファインダーを使う

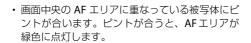
日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、電子ビューファインダーを使って撮影してください。|□| ボタンを押すと、電子ビューファインダーに切り換えられます（□14）。

電子ビューファインダーの視度が合わない場合は、被写体がもっともよく見える位置まで視度調節ダイヤルを回してください（□14）。

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。被写体を大きく写したいときは**T**方向にズームレバーを回してください。
広い範囲を写したいときは**W**方向にズームレバーを回してください。
ズームレバーをいっぱいまで回すとズーム動作が速くなり、途中まで回すとズーム動作がゆっくりになります。

ズームレバーを回すと液晶モニターの画面上部にズームの量が表示されます。

電子ズームについて

光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらに**T**方向に回し続けると、電子ズームが作動します。光学ズームの最大倍率の約4倍まで拡大できます。
電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像サイズ（🕮108）や電子ズーム倍率により、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示が黄色に変わります。
凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像サイズで画質を劣化させずに撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

画像サイズが小さい場合

- セットアップメニュー（🕮135）の［**電子ズーム**］（🕮145）で、電子ズームの倍率を画質が劣化しない範囲内に制限することや、電子ズームが作動しない設定にできます。

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1　シャッターボタンを半押しする

- 画面中央の AF エリアに重なっている被写体にピントが合います。ピントが合うと、AF エリアが緑色に点灯します。

- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合うとAF表示（📖8）が緑色に点灯します。
- 半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 半押しして、AFエリアまたはAF表示が赤色に点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2　シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出が合い、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。
シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

半押しすると、ピントと露出が固定　　**そのまま深く押し込んで撮影**

画像の記録についてのご注意

液晶モニターの「記録可能コマ数」が点滅しているときは、画像の記録中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**画像の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、画像が記録されないことや、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAF表示が緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、同距離にある別の被写体にピントを合わせてフォーカスロック撮影をお試しください。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける

半押しする

AF エリアが緑色に点灯したら

半押ししたまま構図を変える

そのまま深く押し込む

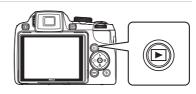
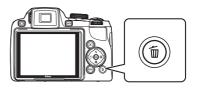
AF補助光について

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押しするとAF補助光（□145）が点灯することがあります。

ステップ4　撮影した画像を再生する/削除する

画像を再生する（再生モード）

▶ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- マルチセレクターの▲▼◀▶で前後の画像を表示できます。ボタンを押し続けると、画像を早送りできます。コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- 前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、もう一度 ▶ ボタンを押すか、シャッターボタンを押します。
- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INは表示されず、SDカードの画像が再生されます。

内蔵メモリー表示

画像を削除する

1 削除したい画像を表示して 🗑 ボタンを押す

2 マルチセレクターで［**はい**］を選び、OKボタンを押す

- 削除をやめるときは、［**いいえ**］を選んでOKボタンを押します。

簡単な撮影と再生―オート撮影モードを使う

再生モードで使える機能

再生モードの1コマ表示中は、以下の機能が使えます。

機能	ボタン	内容	📖
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	73
サムネイル表示/カレンダー表示にする	W（▦）	4コマ、9コマ、または16コマのサムネイル画像またはカレンダーを表示します。	71
情報を表示/非表示にする	DISP	液晶モニターに表示される画像情報、撮影情報の表示/非表示を切り換えます。	15
モニターを切り換える	|□|	液晶モニターと電子ビューファインダーのどちらで再生するかを切り換えます。	14
音声メモを録音/再生する	OK	最大20秒の音声を録音/再生します。	80
撮影モードに切り換える	▶ / シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	30

▶ボタンによる電源ON

電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。このとき、レンズは繰り出しません。

画像の再生について

- 内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SD カードをカメラから取り出してください。
- 顔認識して撮影した画像（📖123）は、1コマ表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます。
- 節電による待機状態で液晶モニターが消灯しているときは、▶ ボタンを押すと、液晶モニターが点灯します（📖146）。

撮影モードで画像を削除する

撮影時に🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像を削除できます。

複数の画像をまとめて削除する

再生メニュー（📖129）の［**削除**］（📖132）を選ぶと、複数の画像をまとめて削除できます。

フラッシュを使う

暗いところや逆光などでは、内蔵フラッシュをポップアップするとフラッシュ撮影ができます。
フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約0.5～8 m、望遠側で約1.7～5 mです（[**ISO感度設定**］が［**オート**］時）。
内蔵フラッシュをポップアップしたときは、撮影状況に合わせてフラッシュの発光モードを設定できます。

AUTO　自動発光

暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。

赤目軽減自動発光

人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます（34）。

発光禁止

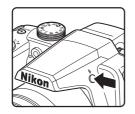
フラッシュは発光しません。

強制発光

被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。

スローシンクロ

強制発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景をきれいに写します。

リアシンクロ

シャッターが閉じる直前にフラッシュを強制発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したいときなどに適しています。

フラッシュモードの設定方法

1 ⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押す

内蔵フラッシュがポップアップします。

- 内蔵フラッシュを閉じているときは⊛（発光禁止）に固定されます。

2 ⚡（フラッシュモード）を押す

- 液晶モニターにフラッシュモードの設定メニューが表示されます。

3 マルチセレクターでモードを選び、Ⓚ ボタンを押す

- 設定したフラッシュモードが表示されます。
- ⚡AUTO（自動発光）にするとモニター情報表示（📖15）がONでも、⚡AUTO が数秒間で消えます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

内蔵フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、内蔵フラッシュをカチッと音がするまで手で軽く押し下げてください（📖7）。

⊛（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□143）を［**OFF**］にしてください。
- 液晶モニターに ISO と表示されることがあります。ISO と表示されたときは、ISO感度が上がっているため、通常よりもざらついた画像になることがあります。

フラッシュ使用時のご注意

フラッシュを使用して撮影すると、フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込んでしまうことがあります。このようなときは、フラッシュモードを⊛（発光禁止）にするか、内蔵フラッシュを閉じて撮影するようおすすめします。

フラッシュ表示について

シャッターボタン半押し時に、フラッシュ表示でフラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

フラッシュモードの設定について

- フラッシュモードの初期設定は、撮影モードによって異なります。
  - （オート撮影）モード：AUTO（自動発光）
  - **P**、**S**、**A**、**M**モード：AUTO（自動発光）
  - シーンモード：シーンによって異なります（□41～47）
  - SCENE（おまかせシーン）モード：AUTO（自動発光）自動判別されたシーンに合わせてカメラがフラッシュモードを設定します（□32）
  - （スポーツ連写）モード：⊛（発光禁止）に固定
  - 動画の微速度撮影：AUTO（自動発光）
- （オート撮影）モードの場合、フラッシュモードの設定を ⚡◎（赤目軽減自動発光）にして撮影すると、電源をOFFにしても設定は記憶されます。
- 撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、フラッシュモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「アドバンスト赤目軽減方式」を採用しています。
フラッシュが本発光する前に、少量発光を数回行い赤目現象の発生を軽減します。
さらに、カメラが撮影した画像を記録する前に赤目現象を検出したときは、赤目部分に補正を加えてから記録します。
撮影する際には、以下の点にご注意ください。

- シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。そのため、シャッターチャンスを優先する撮影にはおすすめできません。
- 次の撮影ができるまでの時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。

セルフタイマーを使う

記念撮影などで自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（🕮143）を［**OFF**］にしてください。

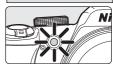
1 ⏲（セルフタイマー）を押す

- 液晶モニターにセルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［**10s**］または［**2s**］を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**10s**］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［**2s**］（2秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が液晶モニターに表示されます。作動中は、セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

😊（笑顔自動シャッター）、👁（目つぶり軽減）について

😊または👁を選ぶと、顔認識した人物の笑顔を検出して、カメラが自動的にシャッターをきります（🕮54）。

フォーカスモードを使う

撮影目的に合わせて、以下のフォーカスモードを選べます。

AF　通常AF

被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。レンズから50 cm以上（最も望遠側の場合は1.7 m以上）離れた被写体を撮影するときに使います。

マクロAF

花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。
最短撮影距離はズーム位置によって異なり、モニターのマークが緑色になる広角側のズーム位置で、レンズ前約10 cmまでの被写体にピントを合わせられます。また、△マークのズーム位置では、レンズ前約1 cmまでの被写体にピントを合わせられます。

遠景AF

窓越しの景色や風景、建物などを撮影するときに使います。
シャッターボタンを半押しすると、常にAFエリアまたはAF表示（□8）が緑色に点灯します。ただし、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。フラッシュモードは、（発光禁止）になります。

MF　マニュアルフォーカス

レンズ前約1 cm～無限遠（∞）の任意の被写体にピントを合わせることができます（□38）。

各撮影モードで使用できるフォーカスモード

		P、S、A、M、U1、U2	SCENE			
AF（通常AF）	○※1	○※1	※2	※3	○※1	○※1
（マクロAF）	○	○			○	○
（遠景AF）	○	○			○	○
MF（マニュアルフォーカス）	×	○		×	○	×

※1 各撮影モードの初期設定です。
※2 使用できるフォーカスモードと初期設定は、シーンによって異なります（□41～51）。
※3 自動判別されたシーンに合わせてカメラがフォーカスモードを設定します（□52）。

フォーカスモードの設定について

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**の場合、変更したフォーカスモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

フォーカスモードの設定方法

1 ✿（フォーカスモード）を押す

- 液晶モニターにフォーカスモードの設定メニューが表示されます。

2 マルチセレクターでフォーカスモードを選び、Ⓞボタンを押す

- 設定したフォーカスモードが表示されます。
- AF（通常AF）にするとモニター情報表示（□15）がONでも、AFが数秒間で消えます。
- Ⓞ ボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

マクロAFについて

マクロAFでは、カメラが自動的にAF（オートフォーカス）によるピント合わせを繰り返します。シャッターボタンを半押しするとピントを固定して、露出が決まります。
ただし、モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**のときは、［**AFモード**］（□125）の設定が優先されます。

遠景AFについて

（オート撮影）モード、**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**モードで遠景AFに設定したときは、画面にAFエリアは表示されません。

マニュアルフォーカスでピントを合わせる

1 （フォーカスモード）を押して、フォーカスモードの設定メニューを表示する

- マルチセレクターで MF（マニュアルフォーカス）を選び、OKボタンを押してください。
- 画像の中央部が画面全体に拡大表示されます。

2 マルチセレクターの▲または▼を押してピント合わせをする

- 液晶モニターを見ながらピント合わせをします。
- ▲を押すと、遠くの被写体にピントが合います。
- ▼を押すと、近くの被写体にピントが合います。
- シャッターボタンを半押しすると、構図を確認できます。そのまま全押ししても撮影できます。

3 OKボタンを押して、写る範囲を確認する

- 写る範囲と画像中央部の拡大表示が同時に表示されます。
- シャッターボタンを押すと、そのまま撮影ができます。

4 OKボタンを押す

- 画面上部に MF が表示され、設定したピントに固定されます。固定したピントで続けて撮影できます。
- 設定したピントを変更するときは、手順1から繰り返します。
- オートフォーカスに戻すときは、手順1に戻って MF 以外を選びます。

MF（マニュアルフォーカス）について

- シャッターボタンを半押しすると、おおよその被写界深度（被写体の前後のピントの合う範囲）を確認できます。
- 電子ズームは使えません。

露出を補正する

画像全体を明るくしたいときや暗くしたいときなどに使います。

1 （露出補正）を押す

- 液晶モニターに露出補正のガイドが表示されます。
- モードダイヤルが**M**（マニュアル露出）のときは、露出補正ができません。

2 マルチセレクターの▲または▼を押して補正値を選ぶ

- 被写体が暗すぎるとき：補正値を＋側に設定してください。
- 被写体が明るすぎるとき：補正値を－側に設定してください。
- －2.0 EVから＋2.0 EVの範囲で1/3ステップごとに補正できます。

3 OKボタンを押して露出補正の設定を終了する

- ［**0.0**］以外に設定すると、液晶モニターにマークと補正値が表示されます。
- 露出補正を解除するときは、補正値を［0.0］にして OK ボタンを押してください。

4 シャッターボタンを押して撮影する

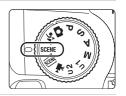
- 手順2でシャッターボタンを押しても、設定した補正値で撮影できます（顔認識撮影（□123）はできません）。

露出補正の設定について

撮影モード**P**、**S**、**A**の場合、露出補正の設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

露出補正について

- 構図の大部分が非常に明るいとき（太陽が反射する水や砂、雪を撮影するときなど）、背景が被写体より明るすぎるときは、カメラが自動的に被写体を暗くする傾向があります。被写体が暗すぎるときは、露出補正値を「＋」側に設定してください。
- 構図の大部分が非常に暗いとき（暗い緑の森を撮影するときなど）、背景が被写体よりも暗すぎるときは、カメラが自動的に被写体を明るくする傾向があります。被写体が明るすぎるときは、露出補正値を「－」側に設定してください。

シーンモードを使う

以下の撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った撮影ができます。

ポートレート	海・雪	クローズアップ	モノクロコピー
風景	夕焼け	料理	逆光
夜景ポートレート	トワイライト	ミュージアム	パノラマアシスト
パーティー	夜景	打ち上げ花火	音声レコード※

※「音声レコード機能を使う」(□87)をご覧ください。

シーンモードの設定方法

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENUボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターでシーンを選んで、OKボタンを押す

- シーンメニューが表示されないときは、SCENEタブを選びます(□13)。

3 構図を決めて撮影する

- フラッシュを使うシーンでは、⚡(フラッシュポップアップ)ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップしてから撮影してください。

画質と画像サイズの設定

シーンメニューで[**画質**](□107)と[**画像サイズ**](□108)を設定できます。画質と画像サイズの設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画質と画像サイズの設定になります(スポーツ連写モード、撮影モード**U1**、**U2**、動画モードを除く)。

シーンモードの種類と特徴

ポートレート

人物を美しく撮影したいときに使います。人物の肌をなめらかで自然な感じに仕上げます。
- カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について →□123）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。

- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- ［**目つぶり検出設定**］（□149）が［**ON**］（初期設定）のときは、目つぶり確認の画面が表示されることがあります。撮影画面に戻るには OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。詳しくは「目つぶり確認画面の操作方法」（□150）をご覧ください。
- 電子ズームは使えません。

	※		OFF※		AF		0.0※

※　変更できます。

風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。

- AF 補助光（□145）の設定にかかわらず、AF 補助光は点灯しません。

			OFF※1				0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

説明で使われているマークについて

は内蔵フラッシュをポップアップしているときのフラッシュモード（□32）の設定です。はセルフタイマー/笑顔自動シャッター/目つぶり軽減（□35、54）、はフォーカスモード（□36）、は露出補正（□39）の設定です。

夜景ポートレート

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。人物と背景の両方を美しく表現します。

- カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について →123）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- ［**目つぶり検出設定**］（149）が［**ON**］（初期設定）のときは、目つぶり確認の画面が表示されることがあります。撮影画面に戻るには OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。詳しくは「目つぶり確認画面の操作方法」（150）をご覧ください。
- 内蔵フラッシュをポップアップして撮影してください。
- 電子ズームは使えません。
- モーション検知（144）は作動しません。

	※1		OFF※2		AF		0.0※3

※1 赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。
※2 セルフタイマーと（笑顔自動シャッター）を使えます。
※3 変更できます。

パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。暗い場所では、三脚などの使用をおすすめします。三脚などに固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（143）を［**OFF**］にしてください。

	※1		OFF※2		AF		0.0※3

※1 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。
※3 変更できます。

：がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（143）を［**OFF**］にしてください。
：がついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

海・雪 NR

晴天の海や砂浜、雪景色などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	AUTO※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	AF	露出補正	0.0※1

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。

夕焼け 三脚 NR

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	発光禁止※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	AF	露出補正	0.0※1

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。

トワイライト 三脚 NR

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（□8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- モーション検知（□144）は作動しません。
- AF 補助光（□145）の設定にかかわらず、AF 補助光は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※1	マクロ	遠景	露出補正	0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

三脚：三脚がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（□143）を［**OFF**］にしてください。
NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

シーンに合わせて撮影する

夜景

夜景の撮影に使います。スローシャッターで夜景の雰囲気を表現します。

- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF エリアまたは AF 表示（8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- モーション検知（144）は作動しません。
- AF 補助光（145）の設定にかかわらず、AF 補助光は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※1	フォーカス	無限遠	露出補正	0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- フォーカスモード（36）が（マクロ AF）になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。
- 最短撮影距離はズーム位置によって異なり、モニターの マークが緑色になる広角側のズーム位置で、レンズ前約 10 cm までの被写体にピントを合わせられます。また、△ マークのズーム位置では、レンズ前約 1 cm までの被写体にピントを合わせられます。
- ［**AF エリア選択**］は［**マニュアル**］になり、OK ボタンを押すとピント合わせを行う AF エリアを選べます（122）。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、ピント合わせを繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（143）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

フラッシュ	AUTO※1	セルフタイマー	OFF※2	フォーカス	マクロ	露出補正	0.0※1

※1 変更できます。被写体から50 cm以上離れなければ、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。
※2 セルフタイマーを使えます。

（三脚）：（三脚）がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（143）を［**OFF**］にしてください。
NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

🍴 料理

料理をきれいに撮影したいときに使います。詳しくは「料理モードを使った撮影方法」（📖48）をご覧ください。

- ［**AF エリア選択**］は［**マニュアル**］になり、Ⓚ ボタンを押すとピント合わせを行う AF エリアを選べます（📖122）。

⚡	⊘	⏲	OFF※1	🌷	🌷	±	0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

🏛 ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- BSS（ベストショットセレクター）（📖118）を使って撮影できます。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（📖143）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- モーション検知（📖144）は作動しません。
- AF 補助光（📖145）の設定にかかわらず、AF 補助光は点灯しません。

⚡	⊘	⏲	OFF※1	🌷	AF※2	±	0.0※3

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 🌷（マクロAF）に変更できます。
※3 変更できます。

打ち上げ花火 [三脚]

スローシャッターで、打ち上げ花火をきれいに撮影できます。

- 遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常にAF表示（□8）が緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- 電子ズームは使えません。
- モーション検知（□144）は作動しません。
- AF 補助光（□145）の設定にかかわらず、AF 補助光は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF	フォーカス	遠景	露出補正	0.0

モノクロコピー [NR]

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、フォーカスモード（□36）の（マクロ AF）を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。

フラッシュ	発光禁止※1	セルフタイマー	OFF※2	フォーカス	AF※3	露出補正	0.0※1

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。
※3 （マクロAF）に変更できます。

逆光

逆光状態での撮影に使います。内蔵フラッシュが常に発光し、人物が影にならずに美しく撮影できます。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 内蔵フラッシュをポップアップして撮影してください。
- モーション検知（□144）は作動しません。

フラッシュ	強制発光	セルフタイマー	OFF※1	フォーカス	AF	露出補正	0.0※2

※1 セルフタイマーを使えます。
※2 変更できます。

[三脚]：[三脚]がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚を使うときは、［**手ブレ補正**］（□143）を［**OFF**］にしてください。
[NR]：[NR]がついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

⌶ パノラマアシスト

撮影した複数の画像をつなげて、パノラマ写真に合成したいときに使います。撮影した画像は、付属のソフトウェア「Panorama Maker」を使ってパソコンでパノラマ写真に合成します。詳しくは「パノラマアシストを使った撮影方法」（□50）をご覧ください。

⚡	⊛※1	⏱	OFF※2	🌷	AF※3	☑	0.0※1

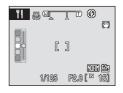
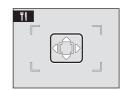
※1 変更できます。
※2 セルフタイマーを使えます。
※3 🌷（マクロAF）または▲（遠景AF）に変更できます。

NR：NRがついたシーンモードでは、自動的にノイズ低減を行うため、画像の記録時間が通常より長くなります。

料理モードを使った撮影方法

料理をきれいに撮影したいときに使います。

1 シーンメニューからマルチセレクターで［🍴 料理］を選び、ⓀボタンをⓂ押す（□40）

- フォーカスモード（□36）が（マクロAF）になり、ズームが自動的に最短距離で撮影可能な位置まで移動します。

2 マルチセレクターの ▲▼ でホワイトバランスを選ぶ

- ▲を押すと赤味、▼を押すと青味が増します。

3 構図を決める

- 最短撮影距離はズーム位置によって異なり、モニターのマークが緑色になる広角側のズーム位置で、レンズ前約10 cmまでの被写体にピントを合わせられます。また、△マークのズーム位置では、レンズ前約1 cmまでの被写体にピントを合わせられます。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（□143）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- ［**AFエリア選択**］は［**マニュアル**］になります（□122）。ⓀボタンをⓂ押すとAFエリアを移動できます。マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、ピントを合わせたい位置にAFエリアを動かします。もう一度Ⓚボタンを押すと、AFエリアを固定します。

- AFエリアを固定した状態で、セルフタイマー（□35）と露出補正（□39）を設定できます。

4 シャッターボタンを押して撮影する

- シャッターボタンを半押しするとピントと露出が固定され、全押しするとシャッターがきれます。
- AFエリアが点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

料理モードについてのご注意

フラッシュは使えません。フォーカスモード（36）は（マクロAF）に固定されます。

料理モードのホワイトバランスについて

- 赤味や青味を増すことで、照明による影響を軽減できます。
- 料理モードのホワイトバランスを変更しても、撮影メニューの［**ホワイトバランス**］（114）は変わりません。
- 料理モードのホワイトバランス設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などに固定して撮影するときは［**手ブレ補正**］（□143）を［**OFF**］にしてください。

1 シーンメニューからマルチセレクターで［⌘ パノラマアシスト］を選び、OK ボタンを押す（□40）

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが表示されます。

シーンメニュー
- モノクロコピー
- 逆光
- パノラマアシスト
- 音声レコード
- 画質
- 画像サイズ

2 マルチセレクターでパノラマ方向を選び、OK ボタンを押す

- 右方向につなげるときは ▷、左方向は ◁、上方向は △、下方向は ▽ を選びます。
- 選んだ方向に黄色い▷▷マークが移動し、OK ボタンを押すと方向を決定します。決定した方向の▷（白色）が表示されます。
- フラッシュモード（□32）、セルフタイマー（□35）、フォーカスモード（□36）、露出補正（□39）を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度OKボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

3 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約 1/3 の部分に半透明で表示されます。

4 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

5 必要な画像を撮影し終わったら、Ⓚボタンを押す

- 手順2の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー、フォーカスモード、露出補正は、撮影開始前に設定してください。撮影開始後に設定の変更はできません。撮影開始後は、画質（□107）、画像サイズ（□108）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（□146）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、1コマ目を撮影すると、画面にAE/AF-Lと表示されます。これは、露出、ホワイトバランスおよびピントがロック（固定）されたことを示しています。これによってパノラマ写真を構成するすべての画像を、同じ露出、ホワイトバランスとピントで撮影できます。

Panorama Maker について

Panorama Maker は、付属のSoftware Suite CD-ROMを使ってパソコンにインストールできます。
撮影した画像をパソコンに転送して（□93）、Panorama Maker でパノラマ写真に合成してください（□96）。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

カメラまかせでシーンに合わせて撮影する（おまかせシーンモード）

構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動的に判別するので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。「おまかせシーンモード」にして、カメラを被写体に向けると、以下のいずれかの撮影モードに自動的に切り換わります。

- オート撮影
- 風景（41）
- 夜景（44）
- 逆光（46）
- ポートレート（40）
- 夜景ポートレート（42）
- クローズアップ（44）

1 モードダイヤルをに合わせる

- 内蔵フラッシュが閉じていると、［**フラッシュが閉じています**］と表示されます。
- （フラッシュポップアップ）ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップしてください。

2 構図を決めて撮影する

- カメラがシーンを自動判別すると、撮影モードアイコンが切り換わります。

  ：オート撮影
  ：ポートレート
  ：風景
  ：夜景ポートレート
  ：夜景
  ：クローズアップ
  ：逆光

- シャッターボタンを半押しするとピントと露出が合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。
- ［**目つぶり検出設定**］（149）が［**ON**］（初期設定）のときは、目つぶり確認の画面が表示されることがあります。撮影画面に戻るにはボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。詳しくは「目つぶり確認画面の操作方法」（150）をご覧ください。

おまかせシーンモードのご注意

撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、オート撮影モード（24）に切り換えるか、目的にあったシーンモード（40）を選んで撮影してください。

おまかせシーンモードでのピント合わせについて

- おまかせシーンモードでは、カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→123）。
- 撮影モードアイコンがやのときは、[**AFエリア選択**]（122）の［**オート**］と同様に9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアにピントが合います。

おまかせシーンモードのフラッシュモード設定

フラッシュモード（32）は、AUTO（自動発光）（初期設定）または（発光禁止）を選べます。

- AUTO（自動発光）にすると、自動判別したシーンに合わせて、カメラが自動的にフラッシュモードを設定します。
- （発光禁止）にすると、撮影状況にかかわらず、フラッシュは発光しません。

おまかせシーンモードで制限される機能

- 電子ズームは使えません。
- （笑顔自動シャッター）、（目つぶり軽減）は使えません。
- マルチセレクターのフォーカスモードボタン（12、36）は使えません。

笑顔自動シャッター /目つぶり軽減を使う

顔認識した人物の笑顔を検出して、カメラが自動でシャッターをきります。撮影モードが、（オート撮影）モード、シーンモードの［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］（目つぶり軽減を除く）、**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**モードのときに使えます。

1 （セルフタイマー）を押す

- 液晶モニターにセルフタイマーの設定メニューが表示されます。
- フラッシュモード、露出、撮影メニューなどを設定するときは、を押す前に設定してください。

2 マルチセレクターで（笑顔自動シャッター）または（目つぶり軽減）（55）を選び、OKボタンを押す

- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択はキャンセルされます。

3 構図を決める

- カメラを被写体に向けます。
- カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれ、ピントが合うと二重枠が一瞬緑色になりピントが固定されます。
- 最大3人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。
- 電子ズームは使えません。

4 シャッターボタンを全押しする

- シャッターボタンを押して5秒後に笑顔検出が始まります。笑顔検出が始まるまでの秒数が液晶モニターに表示され、二重枠が緑色になります。
- 笑顔検出が始まる前にシャッターボタンを押すと、カウントダウンを中止できます。
- カメラが二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- カウントダウンを開始した後にカメラが認識した顔でも、二重枠で囲まれていれば、笑顔を検出できます。
- カメラはシャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

5 必要な画像を撮影し終わったら、シャッターボタンを押す

- 自動撮影を終了します。
- 以下の場合も、撮影が終了します。
  - 9コマ撮影したとき
  - 手順4でシャッターボタンを押してから、笑顔が検出されずに5分経過したとき

目つぶり軽減機能について

前ページの手順2で（目つぶり軽減）を選ぶと、笑顔自動シャッターに目つぶり軽減機能を組み合わせて撮影できます。
手順4で笑顔検出を開始すると、笑顔を検出するたびに自動的に2コマ連写し、人物が目をつぶっていない画像を優先して1コマだけ記録します。

- 記録した画像に目つぶりの可能性があることを検出したときは、右のメッセージが数秒間表示されます。
- ［**夜景ポートレート**］では、（目つぶり軽減）を選べません。

顔認識と笑顔検出について

（笑顔自動シャッター）/（目つぶり軽減）では、人物の顔（正面）にカメラを向けると自動的に顔を認識し、認識した顔の笑顔を検出します。

- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 顔認識について詳しくは、「顔認識撮影について」（123）をご覧ください。

笑顔自動シャッター /目つぶり軽減でのセルフタイマーランプ動作

- 手順4でシャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが点滅します。笑顔検出が始まる約1秒前になると、点灯にかわります。
- カメラが人物の顔を認識したまま笑顔を待っているときも、セルフタイマーランプが点滅します。
- 笑顔を検出してシャッターがきれた直後は、セルフタイマーランプが速く点滅します。

笑顔自動シャッター /目つぶり軽減で制限される機能

- フォーカスモードはAF（通常AF）になります。AF（通常AF）以外に設定すると、（笑顔自動シャッター）または（目つぶり軽減）は、キャンセルされます。
- フラッシュは、（目つぶり軽減）のときは使えません。
- 撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**の場合、［**仕上がり設定**］（111）の［**白黒**］で［**カラー同時記録**］を設定しているときは、（目つぶり軽減）は使えません。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→29

スポーツ連写モードを使う

スポーツ連写モードでは、シャッターボタンの全押しを続けている間、高速で連写（連続撮影）できます。動きのある被写体の一瞬の動きを連写によって鮮明にとらえることができます。

- ISO感度は、640から6400の範囲で自動的に設定されます。
- 選べる画像サイズは［**3M 2048×1536**］以下です。
- ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。

1 モードダイヤルを（スポーツ連写）に合わせる

- スポーツ連写モードになります。

2 MENUボタンを押して、スポーツ連写メニューの設定をする

- スポーツ連写メニュー →58
- スポーツ連写メニューが表示されないときは、タブを選びます（13）。
- 設定したらMENUボタンを押して、撮影画面に戻ります。シャッターボタンを押しても撮影画面に戻ります。

スポーツ連写

高速連写設定	
先取り撮影	OFF
画質	NORM
画像サイズ	3M

3 構図を決めて撮影する

- 画面中央でピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押ししている間、最大45コマまで連写できます。

スポーツ連写についてのご注意

- 撮影後の画像の記録に時間がかかります。記録が終了するまでの時間は、撮影コマ数、画質や画像サイズ、SDカードへの書き込み速度などによって異なります。
- 露出は自動的に設定されます。［**高速連写設定**］（□58）が、［**高速連写 H**］または［**高速連写 H 16:9**］の場合、シャッタースピードは1/4000～1/20秒の範囲で自動的に設定されます。
- ISO感度が高く設定されるため、撮影した画像がざらつくことがあります。
- 常にISO 640以上で撮影されるため、晴天下では適切な露出が得られない（露出がオーバーになる）ことがあります。
- 高速で明滅する蛍光灯や水銀灯の下では、撮影した画像の露出やホワイトバランスにばらつきが発生することがあります。
- シャッターボタンの全押しを続けているときに、内蔵フラッシュをポップアップまたは収納すると、撮影が中止されますのでご注意ください。
- フラッシュモード（□32）は⊛（発光禁止）に固定されます。
- フォーカスモード（□36）の設定ができます。スポーツ連写モードでAF（通常AF）（初期設定）または🌷（マクロAF）にすると、常時AF（□125）になります。
- 露出補正（□39）の設定ができます。
- セルフタイマーは使えません。
- AF補助光（□145）の設定にかかわらず、AF補助光は点灯しません。

高速連写H 16:9、高速連写Hについてのご注意

高速連写H 16:9、高速連写Hでは、画面内に太陽や電灯などの輝度の高い被写体があると、記録した画像の上下方向に光の帯（スミアー）が発生することがあります。また、その光の帯を境にして画像の一部または全部が暗くなったり、緑色になったりすることもあります。これらの現象を避けるには、太陽や電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→□29

スポーツ連写の設定を変更する（スポーツ連写メニュー）

スポーツ連写メニューで以下の項目を設定できます。
スポーツ連写モードで、MENU ボタンを押してスポーツ連写メニューを表示し、マルチセレクターで設定してください。

- スポーツ連写メニューが表示されないときは、タブを選びます（13）。

高速連写設定

スポーツ連写の種類を選びます。

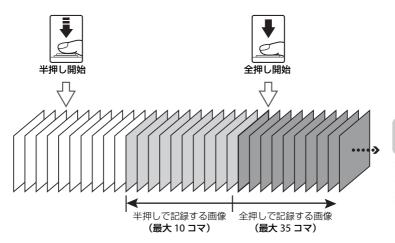
種類	最大連写速度	内容
高速連写 H 16:9	約15コマ/秒	［**高速連写 H**］よりも高速で連写し、画像サイズ16:9（1920×1080ピクセル）で記録します。
高速連写 H（初期設定）	約11コマ/秒	高速で連写します。
高速連写 M	約6コマ/秒	
高速連写 L	約4コマ/秒	

先取り撮影

［**高速連写設定**］が［**高速連写 H 16:9**］、［**高速連写 H**］のときに設定できます。
先取り撮影を［**ON**］にすると、シャッターボタンの半押しで撮影を開始し、全押しする直前の画像も最大10コマまで記録できます。全押ししている間の画像は、最大35コマまで記録できます。
先取り撮影を使うと、シャッターチャンスを逃しにくくなります（59）。

画質

［**画質**］（107）を設定できます。

画像サイズ

［**画像サイズ**］（108）を設定できます。

- スポーツ連写モードで選べる画像サイズは、［**2048 × 1536**］（初期設定）、［**1600 × 1200**］、［**1280 × 960**］、［**1024 × 768**］、［**640 × 480**］です。
- ［**高速連写 H 16:9**］のときは［**1920 × 1080**］となり、画像サイズを選べません。

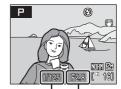
- スポーツ連写モードの画質と画像サイズの設定は、他の撮影モードの設定とは連動せずに独立して記憶されます。

先取り撮影について

先取り撮影が［**ON**］のときに、シャッターボタンを0.5秒以上半押しすると撮影を開始し、全押しする直前の画像も最大10コマまで記録できます。全押ししている間の画像は、最大35コマまで記録できます。
先取り撮影の設定は撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（□8）。シャッターボタンの半押し中は、先取り撮影アイコンが緑色に変わります。

- 撮影前に記録可能コマ数をご確認ください。45 コマ以上残っているときに撮影するようおすすめします。

記録可能コマ数	先取り撮影で記録できるコマ数
45コマ以上	最大10コマ
44コマ以下	最大5コマ
6コマ以下	先取り撮影できません

P、S、A、Mモードについて

モードダイヤルを切り換えて、**P**（プログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル露出）の4種類の露出モードを使って撮影できます。シャッタースピードや絞りを自分で設定できるほか、撮影メニュー（□105）でISO感度やホワイトバランスなどを変更して、さらに高度な撮影を楽しめます。

露出モード		内容	こんなときに
P	**プログラムオート**（□62）	シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えるプログラムシフト（□62）もできます。	ほとんどの撮影状況に適しています。
S	**シャッター優先オート**（□63）	設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。	動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調するときなどに使います。
A	**絞り優先オート**（□64）	設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。	手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたいときなどに使います。
M	**マニュアル露出**（□65）	シャッタースピードも絞り値も撮影者が自由に設定できます。	撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたいときに使います。

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でよく使う設定の組み合わせをモードダイヤル**U 1**または**U 2**に登録できます。モードダイヤルを**U 1**または**U 2**に合わせると、登録したよく使う設定の組み合わせで撮影ができます（□68）。

露出について

シャッタースピードと絞り値を調整して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞りの組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。ISO感度設定（□116）を変えると、適正露出を得られるシャッタースピードと絞り値の範囲も変化します。

速いシャッタースピードのとき
1/1000秒

遅いシャッタースピードのとき
1/30秒

絞りを開いたとき
（絞り値が小さいとき）
f/2.8

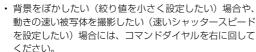
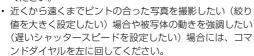
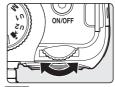
絞りを絞り込んだとき
（絞り値が大きいとき）
f/8.0

P（プログラムオート）

カメラが自動的にセットしたシャッタースピードと絞り値で撮影します。

1　モードダイヤルをPに合わせる

2　構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います（□122）。

プログラムシフトについて

P（プログラムオート）で撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は、液晶モニター左上の**P**表示の横にプログラムシフトマーク（✱）が表示されます。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や、動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを右に回してください。

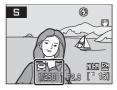
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを左に回してください。

- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク（✱）が消えるまでコマンドダイヤルを回してください。モードダイヤルを切り換えたり、電源をOFFにしても、プログラムシフトを解除できます。

✔ シャッタースピードについてのご注意

［**連写**］（□118）を［**マルチ連写**］にすると、シャッタースピードの最大速度は1/2500秒になり、最長は1/30秒に制限されます。

S（シャッター優先オート）

シャッタースピードを設定して撮影します。

1 モードダイヤルを**S**に合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピード（1/2000～8秒）を設定する

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います（📖122）。

✔ S（シャッター優先オート）撮影時のご注意

- 被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定したシャッタースピードで撮影できないことがあります。このようなときは適切な露出が得られていないため、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターのシャッタースピード表示が点滅します。設定したシャッタースピードを変えてください。
- 1/4秒以上の低速シャッタースピードに設定すると、撮影画像にノイズが出ることがあります。このようなときは液晶モニターのシャッタースピード表示が赤色に点灯します。撮影メニューの［**ノイズ低減**］（📖126）を［**ON**］にするようおすすめします。

✔ シャッタースピードについてのご注意

［**連写**］（📖118）を［**マルチ連写**］にすると、シャッタースピードの最大速度は1/2500秒になり、最長は1/30 秒に制限されます。

A（絞り優先オート）

絞り値を設定して撮影します。

1 モードダイヤルをAに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、絞り値（開放絞り〜最小絞り）を設定する

- 絞り値は、f/2.8〜8.0（広角側）、f/5.0〜8.0（望遠側）の範囲で設定できます。

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います（□122）。

A（絞り優先オート）撮影時のご注意

被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定した絞り値で撮影できないことがあります。このようなときは適切な露出が得られていないため、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターの絞り値表示が点滅します。設定した絞り値を変えてください。

シャッタースピードについてのご注意

［**連写**］（□118）を［**マルチ連写**］にすると、シャッタースピードの最大速度は1/2500秒になり、最長は1/30秒に制限されます。

絞りとズームについて

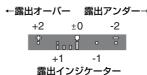
絞り値（F値）とはレンズの明るさを示す値で、レンズの焦点距離を有効口径（レンズの中にある絞りとそこを通る光の関係を数値化したもの）で割った数値のことをいいます。この数値が小さくなるに従って明るくなり、大きくなるに従って暗くなります。また、そのレンズの絞りの一番小さい数値を開放絞り値といい、一番大きい数値を最小絞り値といいます。このカメラのレンズ（4.6-110.4mm f/2.8-5）はズーム位置によって絞り値が変化します。望遠側にズームすると絞り値が大きくなり、広角側にズームすると絞り値が小さくなります。

M（マニュアル露出）

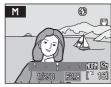
シャッタースピードと絞り値を設定して撮影します。

1 モードダイヤルを**M**に合わせる

2 マルチセレクターの ▶ を押して、シャッタースピードを選ぶ

- マルチセレクターの▶を押すごとに、シャッタースピードと絞り値が交互に切り換わります。
- 1/4 秒以上の低速シャッタースピードの場合は、液晶モニターのシャッタースピード表示が赤色に点灯します（□63）。

3 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピード（1/2000～8秒）を設定する

- 設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに数秒間表示されます。

- 設定された露出値とカメラの測光した適正露出値の差は、露出インジケーターに－2 EVから+2 EVの範囲で1/3段ごとに表示されます。
  図は露出が1段オーバーのときの例です。

4 マルチセレクターの▶を押して、絞り値を選ぶ

5 コマンドダイヤルを回して、絞り値を設定する

- 必要に応じて、手順2～5を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。

6 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います（🕮122）。

✔ シャッタースピードについてのご注意

［**連写**］（🕮118）を［**マルチ連写**］にすると、シャッタースピードの最大速度は1/2500秒になり、最長は1/30秒に制限されます。

✔ ISO感度についてのご注意

［**ISO感度設定**］（🕮116）を［**オート**］（初期設定）、［**高感度オート**］または［**感度制限オート**］に設定していると、ISO感度はISO 64に固定されます。

U1、U2（ユーザーセッティング）モードを使う

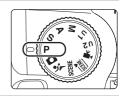
撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**でよく使う設定の組み合わせをモードダイヤルの**U1**または**U2**に登録できます。
モードダイヤルを**U1**または**U2**に合わせると、登録した設定の組み合わせで撮影できます。
U1または**U2**には、以下の設定内容を登録できます。

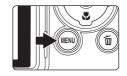
基本設定

撮影モードP/S/A/M（60）※1	モニター表示（14、15）	ズーム位置（27）
フラッシュモード（32）	フォーカスモード（36）※2	露出補正（39）

撮影メニュー

画質（107）	画像サイズ（108）	仕上がり設定（111）
ホワイトバランス（114）※3	ISO感度設定（116）	測光方式（117）
連写（118）	ブラケティング（121）	AFエリア選択（122）※4
AFモード（125）	調光補正（125）	ノイズ低減（126）
ゆがみ補正（126）	Active D-ライティング（70）	

※1 登録時のプログラムシフトの設定（**P**のとき）、シャッタースピード（**S**、**M**のとき）、絞り値（**A**、**M**のとき）も記憶します。
※2 フォーカスモードがMF（マニュアルフォーカス）のときは、登録時のフォーカスの距離も記憶します。
※3 プリセットマニュアルのプリセット値は、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**で共通です。
※4 AFエリア選択が［**マニュアル**］のときは、登録時のAFエリアの位置も記憶します。

バックアップ用電池のご注意

内蔵のバックアップ用電池（139）が切れると、**U1**、**U2**に登録した設定内容がリセットされますのでご注意ください。重要な設定は、必要に応じてメモしておくことをおすすめします。

U1/U2に設定内容を登録する

1 登録したい露出モードにモードダイヤルを合わせる

- P、S、AまたはMに合わせてください。
- U1またはU2に合わせても登録できます（ご購入時は、撮影モードPの初期設定が登録されています）。

2 撮影時の設定をよく使う組み合わせに変更する

3 MENUボタンを押す

- 撮影メニューが表示されます。
- 撮影メニューが表示されないときは、P、S、A、M、U1またはU2タブを選びます（□13）。

4 マルチセレクターで［**User Setting 登録**］を選んで、OKボタンを押す

5 登録先を選んで、OKボタンを押す

- 現在の設定内容が登録されます。
- 選んだ登録先の設定内容が上書きされます。

登録した設定内容をリセットする

リセットすると、登録された設定内容は、撮影モード**P**の初期設定に戻ります。

1 撮影メニュー画面で［**User Setting** リセット］を選んで、Ⓚボタンを押す

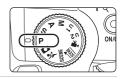
2 リセットする登録先を選んで、Ⓚボタンを押す

- 登録された設定内容がリセットされます。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する（アクティブ D-ライティング）

撮影の前にあらかじめ「アクティブ D-ライティング」を設定しておくと、ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。撮影した画像は、見た目のコントラストに近い仕上がりになります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するときに効果的です。撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**のときに使えます。

1 モードダイヤルを**P**、**S**、**A**または**M**に合わせる

- **U1**または**U2**に合わせても設定できます。

2 MENU ボタンを押して撮影メニューを表示し、マルチセレクターで［**Active D-ライティング**］を選んで、OK ボタンを押す

- 撮影メニューが表示されないときは、**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**または**U2**タブを選びます（□13）。

3 効果の度合いを選び、OK ボタンを押す

- アクティブD-ライティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（□8）。

アクティブ D-ライティングについてのご注意

- アクティブ D-ライティングで撮影する場合は、記録に時間がかかります。
- アクティブ D-ライティングを設定した場合、設定しないで撮影した場合よりも露出をアンダー側に制御して撮影します。階調が適切な明るさになるように、ハイライト部やシャドー部および中間調を調整します。
- アクティブ D-ライティングを設定したときは、［**測光方式**］（□117）が［**マルチパターン**］に変更されます。
- 仕上がり設定の［**カスタマイズ**］（□112）と［**白黒**］（□113）の［**カスタマイズ**］の［**コントラスト**］は［**オート**］に変更されます。
- ［**ISO 感度設定**］（□116）を［**高感度オート**］または［**1600**］以上に設定すると、アクティブ D-ライティングは［**OFF**］になります。

［Active D-ライティング］と［D-ライティング］の違い

［**Active D-ライティング**］は、撮影前に階調が適切に調整できるようにアンダー側に露出を制御して撮影します。一方、再生メニューの［**D-ライティング**］（□76）は、撮影した画像に対して階調を適切に再調整します。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（📖30）でズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります。

サムネイル表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	📖
画像を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀ ▶を押します。	12
	コマンドダイヤル	コマンドダイヤルを回します。	–
表示コマ数を増やす/カレンダーを表示する	**W**(▦)	ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと、4コマ→9コマ→16コマ→カレンダー表示に切り換わります。 「カレンダー表示」にすると、撮影日単位で画像の選択を移動できます（📖72）。 **T**（🔍）方向に回すと、サムネイル表示に戻ります。	–
表示コマ数を減らす	**T**（🔍）	ズームレバーを**T**（🔍）方向に回すと、16コマ→9コマ→4コマに切り換わります。 4コマ表示で**T**（🔍）方向に回すと、1コマ表示に戻ります。	
1コマ表示に戻る	Ⓚ	Ⓚボタンを押します。	30
撮影モードに切り換える	▶ / シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	30

サムネイルに表示されるマーク

［**プリント指定**］（□103）や［**プロテクト設定**］（□132）をした画像の選択中は右のマークが表示されます。
動画は、映画フィルムの1コマのように表示されます。

カレンダー表示

再生モードのサムネイル表示を16コマ表示にした後（□71）、さらにズームレバーを**W**（▦）方向に回すと「カレンダー表示」になります。
撮影日単位で画像の選択を移動できます。撮影画像のある日付には、黄色の下線が表示されます。

カレンダー表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
日付を選ぶ	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀▶を押します。	12
	コマンドダイヤル	コマンドダイヤルを回します。	–
1コマ表示に戻る	OK	選んだ日の最初に撮影した画像の1コマ表示に移動します。	30
サムネイル表示に戻る	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。	–

カレンダー表示モードについてのご注意

- 日時を設定せずに撮影した画像は、「2009年1月1日」の画像として扱われます。
- カレンダー表示中は、MENUボタンおよび🗑ボタンは使えません。

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（📖30）でズームレバーを**T**（🔍）方向に回すと、表示中の画像の中央部が拡大表示されます。

- 画面右下のガイドは、どの部分を表示しているかを示しています。

拡大表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	📖
拡大倍率を上げる	**T**（🔍）	ズームレバーを**T**（🔍）方向に回します。約10倍まで拡大できます。コマンドダイヤルを右に回しても拡大倍率が上がります。	–
拡大倍率を下げる	**W**（⊞）	ズームレバーを**W**（⊞）方向に回します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。コマンドダイヤルを左に回しても拡大倍率が下がります。	–
表示範囲を移動する	マルチセレクター	マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、表示範囲を移動します。	12
1コマ表示に戻る	ⓞⓚ	ⓞⓚボタンを押します。	30
画像の一部を切り抜く（トリミング）	MENU	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	77
撮影モードに切り換える	▶ / シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、モードダイヤルで選んでいるモードになります。	30

顔認識して撮影した画像の場合

顔認識（📖123）して撮影した画像は、再生モードの1コマ表示でズームレバーを**T**（🔍）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます。

- 複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、マルチセレクターの▲▼◀▶を押すと表示する顔が切り換わります。

- さらに**T**（🔍）方向または**W**（⊞）方向に回すと拡大率が変わり、通常の拡大表示になります。

画像を編集する

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別の画像として、異なるファイル名で保存されます（□156）。

編集の種類	内容
簡単レタッチ（□75）	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。
D-ライティング（□76）	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
トリミング（□77）	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。
スモールピクチャー（□78）	小さいサイズの画像を作成します。メールに添付して送信するときなどに使います。
黒フレーム（□79）	画像の周りに黒い枠を付けます。画像に境界線を付けたいときなどに使います。

画像編集を適用する際のご注意

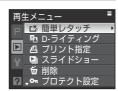
- ［**画像サイズ**］（□108）を［**3984×2656**］、［**3968×2232**］、［**2992×2992**］にして撮影した画像や［**高速連写 H 16:9**］（□58）で撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。
- このカメラ以外で撮影した画像は、編集できません。
- このカメラ以外のデジタルカメラでは、このカメラで編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

	2回目の編集				
1回目の編集	簡単レタッチ	D-ライティング	トリミング	スモールピクチャー	黒フレーム
簡単レタッチ	×	×	○	○	×
D-ライティング	×	×	○	○	×
トリミング	×	×	×	×	×
スモールピクチャー	×	×	×	×	×
黒フレーム	×	×	×	×	×

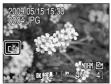
- 同じ画像編集を2回行うことはできません。
- 簡単レタッチまたは D- ライティングと、トリミングまたはスモールピクチャーを組み合わせて編集するときは、簡単レタッチまたはD-ライティングを先に行ってください。
- 編集した画像に黒フレームは付けられません。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［**プリント指定**］（□103）や［**プロテクト設定**］（□132）された画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

簡単にレタッチする

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。簡単レタッチで補正した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□71）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。
- 再生メニューが表示されないときは、▶タブを選びます（□13）。

2 マルチセレクターで［簡単レタッチ］を選び、ⓚボタンを押す

- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。
- 再生モード以外で再生メニューを表示したときは、［**簡単レタッチ**］を選ぶと画像選択画面（□130）が表示されます。編集する画像を選び、ⓚボタンを押します。

3 マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、ⓚボタンを押す

- 補正画像が作成されます。
- 簡単レタッチを中止するときは、MENUボタンを押します。
- 簡単レタッチで作成した画像は、再生画面で が表示されます。

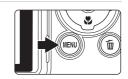
関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

画像の暗い部分を明るく補正する（D-ライティング）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。D-ライティングで補正した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□71）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。
- 再生メニューが表示されないときは、▶タブを選びます（□13）。

2 マルチセレクターで［ D-ライティング］を選び、ⓚボタンを押す

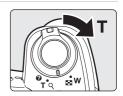
- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。
- 再生モード以外で再生メニューを表示したときは、［**D-ライティング**］を選ぶと画像選択画面（□130）が表示されます。編集する画像を選び、ⓚボタンを押します。

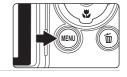
3 マルチセレクターの▲▼を押して効果の度合いを選び、ⓚボタンを押す

- 補正画像が作成されます。
- D-ライティングを中止するときは、MENUボタンを押します。
- D-ライティングを行った画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

再生機能を使いこなす

画像の一部を切り抜く（トリミング）

拡大表示（□73）中にMENU:✂マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）でズームレバーをT（Q）方向に回して、画像を拡大表示する

- 縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、トリミング画像は横位置になります。縦位置のトリミング画像を作るには［**画像回転**］（□133）で横位置にしてからトリミングし、再度トリミング画像を縦位置に戻します。

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーを**T**（Q）または**W**（▦）方向に回して拡大率を調節します。
- マルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

4 マルチセレクターで［はい］を選び、OK ボタンを押す

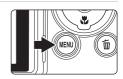
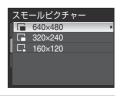
- トリミング画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。トリミング後の画像サイズが 320 × 240 ピクセルまたは 160 × 120 ピクセルになった画像は、再生時にグレーの枠で囲まれ、画面左側にスモールピクチャーの▢または▢アイコンが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

再生機能を使いこなす

小さいサイズの画像を作成する（スモールピクチャー）

撮影した画像から、小さいサイズの画像を新しく作ります。作成するスモールピクチャーの大きさは、以下の3種類から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

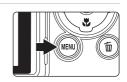
種類	内容
640×480	テレビでの表示に適しています。
320×240	ホームページでの使用に適しています。
160×120	電子メールへの添付に適しています。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□71）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。
- 再生メニューが表示されないときは、▶タブを選びます（□13）。

2 マルチセレクターで［スモールピクチャー］を選び、OKボタンを押す

- 再生モード以外で再生メニューを表示したときは、［**スモールピクチャー**］を選ぶと画像選択画面（□130）が表示されます。編集する画像を選び、OKボタンを押します。

3 スモールピクチャーのサイズを選び、OK ボタンを押す

4 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 作成をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。
- スモールピクチャーで作成した画像は、グレーの枠で囲まれて表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

画像の周りに黒い枠を付ける（黒フレーム）

撮影した画像の周りに黒い枠を付けます。黒い枠の太さは、［**細**］、［**中**］、［**太**］の3種類から選べます。黒い枠を付けた画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（📖30）またはサムネイル表示（📖71）で画像を選び、MENUボタンを押す

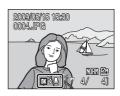
- 再生メニューが表示されます。
- 再生メニューが表示されないときは、▶タブを選びます（📖13）。

2 マルチセレクターで［BK 黒フレーム］を選び、OKボタンを押す

- 再生モード以外で再生メニューを表示したときは、［**黒フレーム**］を選ぶと画像選択画面（📖130）が表示されます。編集する画像を選び、OKボタンを押します。

3 黒い枠の太さを選び、OKボタンを押す

4 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- 黒い枠を付けた画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

黒フレームについてのご注意

- 黒い枠は画像の上に重ねられるため、黒い枠の太さに応じて画像が削られます。
- 黒い枠を付けた画像をフチなしでプリントすると、黒い枠がプリントされないことがあります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→📖156

画像に音声メモを付ける

再生モードの1コマ表示（□30）で🆗:🎙マーク（音声メモ録音ガイド）が表示されている画像に、カメラのマイクを使って音声によるメモが付けられます。

音声メモを録音する

Ⓚボタンを押している間、約20秒まで音声メモを録音できます。

- 録音中は、カメラのマイクに触れないようにご注意ください。
- 録音中はRECと♪が点滅します。

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像を1コマ表示して、Ⓚボタンを押すと音声メモが再生されます。再生が終わるか、もう一度Ⓚボタンを押すと再生が終了します。

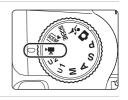
- 音声メモ付きの画像には、🆗:♪（音声メモ再生ガイド）が表示されます。
- 再生中は、ズームレバー **T**（Q）/**W**（▦）で音量を調節できます。

音声メモを削除する

音声メモ付き画像を選んで🗑ボタンを押します。マルチセレクターで［♪］を選んでⓀボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

✔ 音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- このカメラ以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

動画を撮影する

動画（音声付き）を撮影できます。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

- 液晶モニターに、記録できる時間が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影を開始する

- ピントは画面中央にある被写体に合います。
- 液晶モニターで記録できる残り時間の目安を確認できます。
- 撮影を終了するには、もう一度シャッターボタンを全押しします。
- 内蔵メモリー/SDカードの残量がなくなったとき、または記録時間が25分に達したときは、撮影が自動的に終了します。

✔ 動画撮影についてのご注意

- 露出補正（📖39）ができます。フォーカスモード（📖36）は、AF（通常AF）、🌷（マクロAF）または▲（遠景AF）を選べます。フラッシュ（📖32）は、微速度撮影のみで使えます。セルフタイマー、笑顔自動シャッター/目つぶり軽減は使えません。
- 動画撮影中にフラッシュモード、フォーカスモードまたは露出補正の設定や変更はできません。撮影を開始する前に設定してください。
- 動画撮影を開始すると光学ズームは使えません。電子ズームは動画撮影の開始前は使えませんが、微速度撮影以外の動画撮影中は2倍まで作動します。
- 動画モードでは微速度撮影を除き、静止画の撮影モードに比べて画角（写る範囲）が小さくなります。

✔ 動画の記録についてのご注意

撮影終了後、撮影画面になるまでは、動画の記録中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**動画の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、動画が記録されないことや、撮影した動画やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

動画撮影の設定を変更する

- 動画メニューで［**動画設定**］、［**AFモード**］および［**電子式手ブレ補正**］を変更できます（📖82）。
- ［**動画設定**］が［**微速度撮影 640★**］のときは、動画に音声は付きません。

動画撮影の設定を変更する（動画メニュー）

動画メニューで［**動画設定**］、［**AF モード**］および［**電子式手ブレ補正**］を変更できます。
動画モードで、MENUボタンを押して動画メニューを表示し、マルチセレクターで設定してください。

- 動画メニューが表示されないときは、タブを選びます（□13）。

動画設定

（動画）に設定 ➔ MENU ➔ （動画メニュー）➔ 動画設定

撮影する動画の種類を選びます。

種類	画像サイズとフレーム数
TV再生 640★（初期設定）	画像サイズ：640×480ピクセル 撮影フレーム数：30フレーム/秒
TV再生 640	画像サイズ：640×480ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
カメラ再生 320	画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
微速度撮影 640★（□84）	自動的に一定間隔で静止画を連続撮影してから、その静止画をつないで動画として記録します。 花のつぼみが開く様子を早送りで観察したいときなどに便利です。 音声は記録できません。 画像サイズ：640×480ピクセル 再生フレーム数：30フレーム/秒
セピア動画 320	セピア調の動画を撮影します。 画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒
白黒動画 320	白黒の動画を撮影します。 画像サイズ：320×240ピクセル 撮影フレーム数：15フレーム/秒

動画の記録可能時間/フレーム数

種類	内蔵メモリー（約47 MB）	SDカード（512 MB）
TV再生 640★（初期設定）	43秒	約7分10秒
TV再生 640	1分26秒	約14分10秒
カメラ再生 320	2分50秒	25分
微速度撮影 640★（□84）	513フレーム	動画1ファイルにつき 1800フレーム
セピア動画 320	2分50秒	25分
白黒動画 320	2分50秒	25分

※ 数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類によって記録可能時間は異なります。このカメラで記録できる動画1ファイルの記録可能時間は、最大25分です。SDカードの残量にかかわらず、撮影時の画面に表示される記録可能時間は、最大25分です。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

AFモード

（動画）に設定 ➔ MENU ➔ （動画メニュー）➔ AFモード

動画撮影時のオートフォーカスの方法を選びます。

種類	内容
シングルAF（初期設定）	シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行い、半押ししている間はピントを固定（フォーカスロック）します。撮影中はそのピントで固定します。
常時AF	撮影中、常にピント合わせを繰り返します。 撮影中にカメラの動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］に設定して撮影することをおすすめします。

電子式手ブレ補正

𝓋（動画）に設定 ➔ MENU ➔ 𝓋（動画メニュー）➔ 電子式手ブレ補正

動画撮影時の電子式手ブレ補正を設定します。

種類	内容
ON（初期設定）	［**微速度撮影 640★**］以外の動画撮影時に手ブレの影響を軽減します。
OFF OFF	電子式手ブレ補正を行いません。

電子式手ブレ補正の設定状態は、撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（8）。

微速度撮影の手ブレ補正について

［**微速度撮影 640★**］撮影時の手ブレ補正は、セットアップメニュー（135）の［**手ブレ補正**］（143）で設定します。

微速度撮影をする

花のつぼみが開く様子を早送りで観察したいときなどに便利です（82）。

1 マルチセレクターで動画メニューから［**動画設定**］を選び、OKボタンを押す

- 動画メニューが表示されないときは、タブを選びます（13）。

2 ［**微速度撮影 640★**］を選び、OKボタンを押す

3 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**30 秒**］、［**1 分**］、［**5 分**］、［**10 分**］、［**30 分**］または［**60 分**］から選べます。

インターバル設定
30 秒
1 分
5 分
10 分
30 分
60 分

4 MENU ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

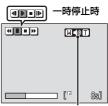
5 シャッターボタンを全押しして、撮影を始める

- 撮影の合間は液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次の撮影時間になると、自動的に液晶モニターが点灯します。

6 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影フレーム数が1800フレームに達すると、撮影が自動的に終了します。1800フレーム撮影した場合は、再生時間が60秒の動画になります。

微速度撮影についてのご注意

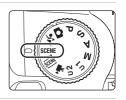
- フラッシュモード（□32）、フォーカスモード（□36）、露出補正（□39）は、1フレーム目を撮影する前に設定してください。2フレーム目以降はすべて同じ設定で撮影されます。撮影開始後に設定の変更はできません。
- 途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から、このカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- 微速度撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

動画を再生する

1コマ表示（□30）で動画設定（□82）のアイコンが表示されている画像が動画です。OKボタンを押すと、再生できます。

再生中はズームレバー **T**/**W**で音量を調節できます。コマンドダイヤルを回すと早送り/巻き戻しできます。
画面上部には操作パネルが表示されます。マルチセレクターの◀▶を押して操作パネルのボタンを選ぶと、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	
巻き戻し	◀◀	OKボタンを押している間、巻き戻します。	
早送り	▶▶	OKボタンを押している間、早送りします。	
一時停止	❚❚	OKボタンを押すと、一時停止します。 一時停止中に画面上部の操作ボタンで、以下の操作ができます。	
		◀❚	OKボタンを押すと、1コマ戻ります。押し続けると、連続してコマ戻しします。
		❚▶	OKボタンを押すと、1コマ進みます。押し続けると、連続してコマ送りします。
		▶	OKボタンを押すと、再生を再開します。
再生終了	■	OKボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	

動画ファイルを削除する

動画再生中や、1コマ表示（□30）、サムネイル表示（□71）で動画を選んで🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。
［**はい**］を選んでOKボタンを押し、動画ファイルを削除します。削除をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

音声を録音する

音声レコードモードでは、ボイスレコーダーのように音声を内蔵メモリーやSDカードに録音できます。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで［音声レコード］を選び、OKボタンを押す

- 録音可能時間が表示されます。
- シーンメニューが表示されないときは、SCENEタブを選びます（□13）。

3 ◀▶を押して操作パネルの●を選び、OKボタンを押して録音を始める

- 録音中は電源ランプが点灯します。
- 録音開始後、カメラを操作しない状態が約30秒続くと、節電機能が働き、液晶モニターが消灯します。DISPボタンを押すと、液晶モニターが再点灯します。
- 音声録音中の操作→□88

4 ◀▶を押して操作パネルの■を選び、OKボタンを押して録音を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または録音時間が120分に達すると、録音が自動的に終了します。

関連ページ

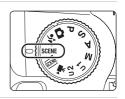
記録データのファイル名とフォルダー名→□156

音声録音中の操作

機能	ボタン	内容
操作パネルのカーソルを移動する		マルチセレクターの◀▶を押します。 [■]：Ⓚボタンを押すと、録音を終了します。 [II]：Ⓚボタンを押すと、録音を一時停止します。一時停止中に［O］を選んでⓀボタンを押すと録音を再開します。
インデックスを付ける※		マルチセレクターの▲▼を押します。 インデックス（しおり）を付けると、再生時に聞きたい場所を見つけやすくなります。 録音開始時のインデックスは01で、その後マルチセレクターを押すたびに、98までのインデックスを付けられます。

※ パソコンにコピーした音声データは、QuickTime　などのソフトウェアで再生できますが、カメラで設定したインデックスは機能しません。

音声を再生する

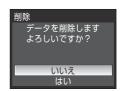
1 モードダイヤルを**SCENE**に合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、マルチセレクターで［🎙 音声レコード］を選び、OKボタンを押す

- 音声レコード画面になります。
- シーンメニューが表示されないときは、SCENEタブを選びます（□13）。

3 マルチセレクターの◀▶を押して▶を選ぶ

4 ▲▼ を押して再生する音声レコードのデータを選び、OKボタンを押す

- 音声が再生されます。
- 音声再生中の操作→□90

音声再生中の操作

音声レコードのデータ再生中は、ズームレバー **T**/**W** で音量を調節できます。
コマンドダイヤルを回すと早送り/巻き戻しできます。
マルチセレクターの◀ ▶を押して、画面下部の操作パネルのボタンを選ぶと、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容
巻き戻し	◀◀	Ⓚボタンを押している間、巻き戻します。
早送り	▶▶	Ⓚボタンを押している間、早送りします。
前のインデックスへ	⏮	Ⓚボタンを押すと、前のインデックスに戻ります。
次のインデックスへ	⏭	Ⓚボタンを押すと、次のインデックスに進みます。
一時停止	❚❚ ▶	Ⓚボタンを押すと、一時停止します。 一時停止中に、Ⓚボタンを押すと、再生を再開します。
再生終了	■	Ⓚボタンを押すと、再生を終了します。

音声データを削除する

音声の再生中に🗑ボタンを押すか、音声レコード画面で削除する音声データを選んで🗑ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。［**はい**］を選んでⓀボタンを押し、音声データを削除します。削除をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

音声データをコピーする

内蔵メモリーからSDカードに、またはSDカードから内蔵メモリーに、音声レコードで録音したデータをコピーできます。
カメラにSDカードを入れてから操作してください。

1 音声レコード画面（📖89 手順3）でマルチセレクターの◀▶を押してCOPYを選び、Ⓚボタンを押す

2 コピーする方向を選び、Ⓚボタンを押す

- IN➡▢：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- ▢➡IN：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

3 コピーの方法を選び、Ⓚボタンを押す

- ［**選択データコピー**］→手順4
- ［**全データコピー**］→手順5

4 コピーするデータを選ぶ

- ▶を押してデータの選択（チェックマークあり）/選択解除（チェックマークなし）を切り換えます。
- 複数のデータを選べます。
- 設定が終了したらⓀボタンを押します。

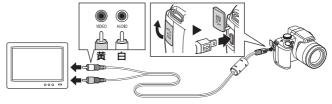
コピーデータ選択
001 2009/05/15 17:30
002 2009/05/15 18:30
003 2009/05/26 13:00
004 2009/05/29 16:40
005 2009/06/03 08:00
▶選択

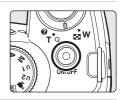
5 コピーを確認する画面が表示されたら、［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

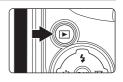
- 音声データがコピーされます。

✓ 音声データコピーについてのご注意

このカメラ以外で録音した音声データについては、音声データコピー機能の動作は保証しておりません。

テレビに接続する

カメラを付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）でテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

- AVケーブルの黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、白のプラグを音声入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを押し続けて電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

画像がテレビに映らないときは

セットアップメニュー（📖135）→［**ビデオ出力**］（📖148）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、ソフトウェア「Nikon Transfer」を使って、撮影した画像をパソコンに転送して保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

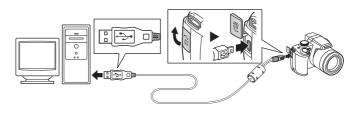
カメラとパソコンを接続する前に、付属の Software Suite（CD-ROM）を使って、パソコンに「Nikon Transfer」やパノラマ写真を作成する「Panorama Maker」などのソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストール方法は、簡単操作ガイドをご覧ください。

対応OS

Windows

32 bit 版のWindows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate (Service Pack 1)
Windows XP Home Edition/Professional (Service Pack 3)

Macintosh

Mac OS X（version 10.3.9、10.4.11、10.5.5）

対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

電源についてのご注意

- パソコン、プリンターなどと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

1 Nikon Transferがインストールされているパソコンを起動する

2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

4 カメラの電源をONにする

- 電源ランプが点灯します。
- **Windows Vista の場合：**
  ［**自動再生**］ダイアログがパソコンに表示されたら、［**コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする－Nikon Transfer 使用**］をクリックし、Nikon Transferを起動します。
  常にNikon Transferで画像を転送する場合は、［**このデバイスの場合は常に次の動作を行う**］にチェックマークを入れてください。
- **Windows XP の場合：**
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたら、［**Nikon Transfer コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする**］を選び、［**OK**］をクリックしてNikon Transferを起動します。常にNikon Transferで画像を転送する場合は、［**この動作には常にこのプログラムを使う**］にチェックマークを入れてください。
- **Mac OS Xの場合：**
  Nikon Transferのインストールで、［**自動起動の設定**］を［**はい**］にした場合は、パソコンでNikon Transferが自動起動します。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 Nikon Transferの起動が終わったら、画像を転送する

- Nikon Transferの［**転送開始**］ボタンをクリックします。記録されているすべての画像がパソコンに転送されます（Nikon Transferの初期設定）。

［**転送開始**］ボタン

- 転送が終わると、転送先のフォルダーが自動的に開きます（Nikon Transferの初期設定）。
- ViewNX をインストールした場合は、ViewNX が自動的に起動し、転送した画像を確認できます。
- Nikon TransferまたはViewNXの操作方法については、Nikon TransferまたはViewNXのヘルプをご覧ください。

6 転送が終わったら、カメラとパソコンの接続を外す

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

カードリーダーを使う

Nikon Transferは、カードリーダーなどの機器に入れたSDカード内の画像も転送できます。

- 2 GB以上のSDカードやSDHC規格のSDカードをお使いの場合は、カードリーダーなどの機器がそれらのSDカードに対応している必要があります。
- カードリーダーなどに SD カードを挿入すると、Nikon Transfer が自動起動します（Nikon Transferの初期設定）。「カメラからパソコンに画像を転送する」の手順5（□95）を参照して、画像を転送してください。
- 内蔵メモリーのデータは、カメラでSDカードにコピーしてから（□91、134）転送してください。

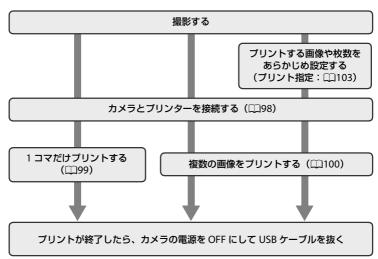
パソコンで画像を表示したり、音声を再生するには

- 画像を保存した転送先のフォルダーを開き、OS 付属のビューアなどで表示してください。
- 音声データは、QuickTimeなどで再生できます。

パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker）

- シーンモードの［**パノラマアシスト**］機能（□47）を使って撮影した画像を、Panorama Makerを使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Makerは、付属のSoftware Suite CD-ROMからインストールできます。
- Panorama Makerをインストールしたら、以下のように起動します。

  Windows：
  ［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ArcSoft Panorama Maker 4**］→［**Panorama Maker 4**］の順にクリックしてください。

  Macintosh：
  ［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Panorama Maker 4**］をダブルクリックしてください。
- Panorama Makerの使い方は、Panorama Makerの操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

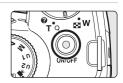
記録データのファイル名とフォルダー名→□156

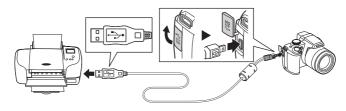
プリンターに接続する

PictBridge（□175）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、以下のとおりです。

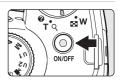
電源についてのご注意

- パソコン、プリンターなどと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から、このカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に以下の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、再生メニューの［**プリント指定**］を使って、あらかじめSDカードに設定できます（□103）。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに①の画面が表示された後、プリント画像選択画面②が表示されます。

①

②

ケーブル接続時のご注意

ケーブルは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→110

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□98）、以下の手順でプリントしてください。

1 マルチセレクターでプリントする画像を選び、Ⓚボタンを押す

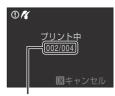
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［**プリント枚数設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

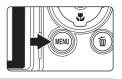
3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、Ⓚボタンを押す

4 ［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

5 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［プリント実行］を選び、Ⓚボタンを押す

7 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（98）、以下の手順でプリントしてください。

1 プリント画像選択画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- プリントメニュー画面が表示されます。

2 マルチセレクターで［**用紙設定**］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

テレビやパソコン、プリンターに接続する

4 ［**プリント選択**］、［**全画像プリント**］または［**DPOFプリント**］を選んで、OKボタンを押す

プリント選択

プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定できます。

- マルチセレクターの ◀ ▶ を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら OK ボタンを押します。

- 表示される右の画面で、［**プリント実行**］を選び、OK ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで OK ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 表示される右の画面で、［**プリント実行**］を選び、OK ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで OK ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［**プリント指定**］（□103）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 表示される右の画面で、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。
- ［**画像の確認**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

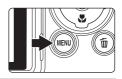
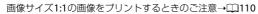
用紙設定について

用紙設定画面では、［**プリンターの設定**］以外に、［**L サイズ**］、［**2L サイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**8×10 in.**］、［**Letter**］、［**A3 サイズ**］、［**A4 サイズ**］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

SDカードにプリントする画像や枚数を設定する（プリント指定）

DPOF（□175）対応のプリンターやプリントサービス店で画像をプリントする際は、どの画像を何枚プリントするかをあらかじめ指定できます。
プリント指定で設定した画像の選択やプリント枚数で、カメラをPictBridge対応プリンターに接続してプリントすることもできます。カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます。

1 再生モードでMENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されます。

2 マルチセレクターで［**プリント指定**］を選び、OKボタンを押す

3 ［**複数画像選択**］を選び、OKボタンを押す

4 プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- マルチセレクターの◀▶を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらOKボタンを押します。

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□110

5 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［**選択終了**］を選んでⓀボタンを押し、設定を有効にします。

プリント指定を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（□175）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOFプリント」（□102）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］を表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。

プリント指定をすべて取り消すには

すべての画像に対するプリント指定を取り消すには、手順3で［**プリント指定取消**］を選びⓀボタンを押します。

日付のプリントについて

プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**日時設定**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

［デート写し込み］について

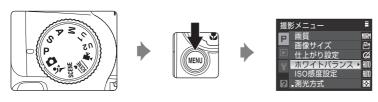
セットアップメニューの［**デート写し込み**］（□142）を使うと、画像に直接日付を写し込んで記録できます。「デート写し込み」した画像は、日付の印字に対応していないプリンターでも「日付」を入れてプリントできます。

デート写し込みした画像は、［**プリント指定**］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

撮影に関する設定―撮影メニュー

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**の撮影メニューには、以下の項目があります。

	画質※	107
	記録時の画質（画像の圧縮率）を選びます。	
	画像サイズ※	108
	記録時の画像の大きさを選びます。	
	仕上がり設定	111
	撮影状況や好みに合わせて、画像の仕上がりを設定できます。	
WB	**ホワイトバランス**	114
	画像を見た目に近い色で記録するように、光源に合わせてホワイトバランスを設定します。	
ISO	**ISO感度設定**	116
	被写体の明るさなどに応じて、ISO感度を設定します。	
	測光方式	117
	カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。	
	連写	118
	連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。	
BKT	**ブラケティング**	121
	露出を少しずつずらした連続撮影を設定します。	
	AFエリア選択	122
	画面のどの位置でピントを合わせるかを設定します。	
	AFモード	125
	ピントの合わせ方を設定します。	
	調光補正	125
	フラッシュの発光量を補正します。	
NR	**ノイズ低減**	126
	低速のシャッタースピードで撮影したときに画像に入るノイズを低減します。	
	ゆがみ補正	126
	ゆがみを補正するかどうかを設定します。	
	Active D-ライティング	70
	ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減し、見た目のコントラストに近い画像で撮影します。	

	User Setting 登録	68
	変更した現在の設定内容をモードダイヤルU1、U2に登録します。	
	User Setting リセット	69
	モードダイヤルU1、U2に登録した設定内容を初期設定にリセットします。	

※ その他の撮影モードのメニューでも設定できます（動画モードを除く）。

撮影メニューの表示方法

モードダイヤルをP（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル露出）またはU1/U2（ユーザーセッティング1/2）に合わせます。

MENUボタンを押して、P、S、A、M、U1またはU2タブを選び、撮影メニューを表示します（13）。

- メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（12）。
- 撮影メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

同時に設定できない機能について

複数の機能を同時に設定できないことがあります（127）。

メニューの操作について

マルチセレクターの▲▼を押すかわりに、コマンドダイヤルを回してもメニュー項目を選べます。

画質

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□105）➔ 画質

記録する画像の圧縮率を選びます。
画質を高くするほど、画像の細部の描写が保たれますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。

FINE	FINE
	［**NORMAL**］よりも精細な画質になります。画像を拡大するときや、プリンターで細かく表現したいときなどに適しています。圧縮率は1/4です。
NORM	NORMAL（**初期設定**）
	一般的な撮影に適した画質モードです。圧縮率は1/8です。
BASIC	BASIC
	画質は［**NORMAL**］よりも低くなりますが、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。圧縮率は1/16です。

画質の設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□8、9）。

画質の設定について

- 画質の設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画質の設定になります（スポーツ連写モード、撮影モード**U1**、**U2**、動画モードを除く）。
- スポーツ連写モードの画質設定は、スポーツ連写メニューで設定してください（□58）。

関連ページ

記録可能コマ数→□109

画像サイズ

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□105）➔ 画像サイズ

記録する画像の大きさ（ピクセル数）を設定します。
画像サイズを大きくするほど、大きくプリントするのに適していますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。
サイズの小さい画像は、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。ただし、サイズが小さい画像を大きくプリントしようとすると、粒子の粗い画像になります。

画像サイズ	内容
12M 4000×3000（初期設定）	［8M **3264×2448**］、［5M **2592×1944**］よりも精細な画像になります。
8M 3264×2448	ファイルサイズと画像のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像サイズです。
5M 2592×1944	
3M 2048×1536	［12M **4000×3000**］、［8M **3264×2448**］、［5M **2592×1944**］よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。
2M 1600×1200	
1M 1280×960	
PC 1024×768	パソコンのモニター表示に適した画像サイズです。
TV 640×480	電子メールへの添付やテレビへの表示に適した画像サイズです。
3:2 3984×2656	35mm判フィルムカメラで撮影したときと同じ縦横比（3:2）の画像になります。
16:9 3968×2232	ワイドテレビと同じ縦横比（16:9）の画像になります。
1:1 2992×2992	正方形の画像になります。

画像サイズの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□8、9）。

画像サイズの設定について

- 画像サイズの設定を変更すると、他の撮影モードでも同じ画像サイズの設定になります（スポーツ連写モード、撮影モードU1、U2、動画モードを除く）。
- スポーツ連写モードの画像サイズ設定は、スポーツ連写メニューで設定してください（□58）。

記録可能コマ数

それぞれの［**画像サイズ**］（108）と［**画質**］（107）の組み合わせで、内蔵メモリーや512 MBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像サイズ	画質	内蔵メモリー（約47 MB）	SDカード※1（512 MB）	プリント時のサイズ※2
4000×3000（初期設定）	FINE NORMAL BASIC	8コマ 16コマ 32コマ	約80コマ 約160コマ 約320コマ	約34×25 cm
3264×2448	FINE NORMAL BASIC	12コマ 24コマ 48コマ	約120コマ 約240コマ 約470コマ	約28×21 cm
2592×1944	FINE NORMAL BASIC	19コマ 38コマ 75コマ	約190コマ 約375コマ 約735コマ	約22×16 cm
2048×1536	FINE NORMAL BASIC	31コマ 60コマ 114コマ	約305コマ 約590コマ 約1115コマ	約17×13 cm
1600×1200	FINE NORMAL BASIC	50コマ 96コマ 171コマ	約495コマ 約940コマ 約1675コマ	約14×10 cm
1280×960	FINE NORMAL BASIC	77コマ 140コマ 256コマ	約755コマ 約1370コマ 約2515コマ	約11×8 cm
1024×768	FINE NORMAL BASIC	114コマ 205コマ 342コマ	約1115コマ 約2010コマ 約3355コマ	約9×7 cm
640×480	FINE NORMAL BASIC	256コマ 385コマ 616コマ	約2515コマ 約3775コマ 約6040コマ	約5×4 cm
3984×2656	FINE NORMAL BASIC	9コマ 18コマ 36コマ	約90コマ 約180コマ 約355コマ	約34×22 cm
3968×2232	FINE NORMAL BASIC	11コマ 22コマ 44コマ	約110コマ 約215コマ 約430コマ	約34×19 cm
2992×2992	FINE NORMAL BASIC	11コマ 22コマ 43コマ	約105コマ 約215コマ 約425コマ	約25×25 cm
1920×1080※3	FINE NORMAL BASIC	46コマ 88コマ 162コマ	約455コマ 約860コマ 約1590コマ	約16×9 cm

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。
※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。
※3 スポーツ連写メニューの［**高速連写設定**］を［**高速連写 H 16:9**］に設定したときの画像サイズです。

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意

画像サイズを「1:1」にして撮影した画像をプリントするときは、プリンターの設定を「フチあり」にしてください。
プリンターによっては、画像を1:1の縦横比でプリントできない場合があります。
詳しくは、お使いのプリンターの使用説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

仕上がり設定

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□105）➔ 仕上がり設定

撮影状況や好みに合わせて、画像の仕上がりを設定できます。輪郭強調の度合い、コントラスト、色の濃度（彩度）を細かく調整することもできます。

標準（初期設定）

標準的な画像に仕上げます。ほとんどの撮影状況に対応できます。

ソフトに

被写体の輪郭をソフトに再現します。人物の肌をなめらかに表現したいときや、撮影後にパソコン上で画像を加工したいときに適しています。

鮮やかに

彩度を高め、赤色と緑色を鮮やかに表現します。ややコントラストが高く、シャープな画像になります。

より鮮やかに

彩度とコントラストを高め、被写体の輪郭を強調した画像になります。

ポートレート

人物撮影に適しています。コントラストを抑え、肌の質感や立体感を自然に仕上げます。

カスタマイズ

仕上がりを自分で細かく設定できます（□112）。

白黒

白黒写真を撮影したいときに使います（□113）。

仕上がり設定の設定は、撮影時の画面で確認できます（［**標準**］のときは、何も表示されません）（□8）。

仕上がり設定についてのご注意

仕上がり設定が［**標準**］、［**ソフトに**］、［**鮮やかに**］、［**より鮮やかに**］、［**ポートレート**］または［**白黒**］の［**スタンダード**］の場合、同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって仕上がり具合は変化します。一連の写真を写すときに同じような仕上がり具合にしたい場合は、［**カスタマイズ**］を選んで［**オート**］以外の項目を設定してください。

仕上がり設定の［カスタマイズ］について

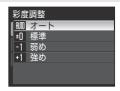
仕上がり設定で［**カスタマイズ**］を選ぶと、以下の項目を個別に設定できます。

コントラスト

画像の階調（コントラスト）を設定します。
コントラストを弱くすると軟調な画像になり、強くすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは弱めが、かすんだ遠景の撮影などには強めが適しています。
初期設定は［**オート**］です。

コントラスト
オート
±0 標準
-2 弱め
-1 やや弱め
+1 やや強め
+2 強め

輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。
強めにするとくっきりとした画像になり、弱めにするとソフトな画像になります。
初期設定は［**オート**］です。

彩度調整

画像の色の鮮やかさを設定します。
弱めにすると鮮やかさが抑えられ、強めにするとより鮮やかになります。
初期設定は［**オート**］です。

✔ コントラストについてのご注意

［**Active D-ライティング**］（📖70）が［**OFF**］以外のときは、コントラストを設定できません。

✔ 輪郭強調についてのご注意

輪郭強調の効果は、撮影時の画面では確認できません。画像を再生して確認してください。

仕上がり設定の［白黒］について

仕上がり設定で［**白黒**］を選ぶと、以下の項目が設定できます。

- ［**スタンダード**］を選ぶと標準的な仕上がりになります。
- ［**カスタマイズ**］を選ぶと、さらに［**コントラスト**］、［**輪郭強調**］、［**モノクロフィルター**］の3種類の項目を個別に設定できます。
- ［**カラー同時記録**］チェックボックスをオン（✔）にすると、白黒画像と同時にカラー画像も記録します。

［**カスタマイズ**］では以下の項目を個別に設定できます。

コントラスト

［**仕上がり設定**］→［**カスタマイズ**］の［**コントラスト**］（□112）と同じです。

輪郭強調

［**仕上がり設定**］→［**カスタマイズ**］の［**輪郭強調**］（□112）と同じです。

モノクロフィルター

白黒写真用カラーフィルターを通して撮影したときのような効果が得られます。

［**黄**］、［**オレンジ**］、［**赤**］：
コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。黄→オレンジ→赤の順にコントラストが強くなります。

［**緑**］：
肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

カラー同時記録について

カラー同時記録で記録されるカラー画像は、仕上がり設定を［**標準**］に設定したときと同じ仕上がりになります。

WB ホワイトバランス

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□105）
➔ ホワイトバランス

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色をデジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

AUTO	**オート（初期設定）**
	カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。
PRE	**プリセットマニュアル**
	特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（□115）をご覧ください。
☀	**晴天**
	晴天の屋外での撮影に適しています。
💡	**電球**
	白熱電球の下での撮影に適しています。
蛍	**蛍光灯**
	白色蛍光灯の下での撮影に適しています。
☁	**曇天**
	曇り空の屋外での撮影に適しています。
⚡	**フラッシュ**
	フラッシュを使う撮影に適しています。

ホワイトバランスの設定は、撮影時の画面で確認できます（［**オート**］のときは、何も表示されません）（□8）。

［オート］、［フラッシュ］以外を選んだ場合

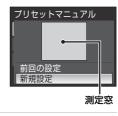
［**オート**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを⊛（発光禁止）に設定してください（□32）。

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明の下で撮影するときなど、［**オート**］や［**電球**］などの設定では望ましい結果が得られない場合に使います（たとえば、赤みがかった照明の下で撮影した画像を、普通の照明の下で撮影したように見せたいときなど）。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 マルチセレクターでホワイトバランス画面の［PRE プリセットマニュアル］を選び、OKボタンを押す

- レンズが光学ズームの中間位置になります。

3 ［**新規設定**］を選ぶ

- 前回プリセットしたホワイトバランスを使いたいときは、［**前回の設定**］を選んでOKボタンを押してください。ホワイトバランスが前回のプリセット値に設定されます。

4 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収める

測定窓

5 OKボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます。
- 画像は記録されません。

プリセットマニュアルについてのご注意

手順5でOKボタンを押したとき、フラッシュは発光しません。このため、フラッシュ撮影時のホワイトバランスの測定はできません。

ISO ISO感度設定

P、**S**、**A**、**M**に設定 ➔ MENU ➔ **P**、**S**、**A**、**M**（撮影メニュー）（□105）➔ ISO感度設定

フィルムカメラで使うフィルムのISO感度に相当する数値を設定します。ISO感度を高くすると、暗い場所や動いている被写体の撮影に効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

オート（初期設定）

明るい場所ではISO 64になり、暗い場所では自動的にISO 800までISO感度が高くなります。**M**（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］に設定すると、ISO感度は64に固定されます。

高感度オート

被写体の明るさに応じて、ISO 64からISO 1600までの範囲でISO感度が自動的に設定されます。**M**（マニュアル露出）モードのときに［**高感度オート**］に設定すると、ISO感度は64に固定されます。

感度制限オート

カメラが自動的にISO感度を変更するときの範囲を［**ISO 64-100**］（初期設定）、［**ISO 64-200**］、［**ISO 64-400**］から選べます。選んだ範囲の上限値以上にISO感度は上がりません。ISO感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。**M**（マニュアル露出）モードのときに［**感度制限オート**］に設定すると、ISO感度は64に固定されます。

64、100、200、400、800、1600、3200、6400

ISO感度を選んだ値に固定します。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（□8）。
［**オート**］に設定した場合、ISO 64で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（□34）。［**高感度オート**］に設定したときは HI ISO が表示され、［**感度制限オート**］に設定したときは ISO＋ISO感度の上限値が表示されます。

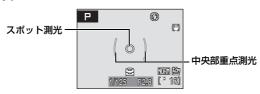
ISO感度［3200］および［6400］についてのご注意

- ［**ISO感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、撮影時の画面の画像サイズマークが赤く表示されます。
- ［**ISO　感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、［**画像サイズ**］（□108）の［**12M 4000×3000**］、［**8M 3264×2448**］、［**5M 2592×1944**］、［**3:2 3984×2656**］、［**16:9 3968×2232**］、［**1:1 2992×2992**］は選べません。これらの画像サイズのときに［**ISO感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、［**3M 2048×1536**］に変更されます。［**ISO感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］以外にすると、元の画像サイズに戻ります。

測光方式

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（105）➔ 測光方式

露出を合わせるため、被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。
カメラが 測光する方式を設定します。

	マルチパターン（初期設定）
	さまざまな撮影状況で適正な露出が得られるマルチパターン測光になります。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。
	中央部重点
	画面に表示されている中央部重点測光範囲で測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（29）を使用してください。
	スポット
	画面中央部に表示されているスポット測光範囲で測光します。被写体と背景の明るさが著しく異なるときなどに使います。被写体がスポット測光範囲に入るように撮影してください。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（29）をお使いください。
	AFスポット
	選択されているAFエリアを測光し、露出値を決定します。［**AFエリア選択**］（122）が［**中央**］以外のときに設定できます。

測光方式についてのご注意

- 電子ズームが1.2 ～ 1.8 倍のときは、［**測光方式**］は［**中央部重点**］になります。電子ズームが2.0 ～ 4.0倍のときは、［**スポット**］になります。ただし、電子ズームのときは、測光範囲は表示されません。
- ［**Active D-ライティング**］（70）の設定を［**OFF**］以外にすると、［**測光方式**］が［**マルチパターン**］に変更されます。

測光方式表示について

［**測光方式**］を［**中央部重点**］または［**スポット**］に設定すると、測光範囲が液晶モニターに表示されます。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

連写

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（105）➔ 連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）を設定できます。
［**連写**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］に設定するとフラッシュは（発光禁止）になり、ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。

単写（初期設定）

1コマずつ撮影します。

連写

シャッターボタンを全押ししている間、約1.4コマ/秒で最大25コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが［**4000×3000**］のとき）。

BSS（ベストショットセレクター）

暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。
シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け（最大10コマ）、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

マルチ連写

シャッターボタンを1回全押しすると約7.5コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが［**2592×1944**］）として記録します。

- 電子ズームは使えません。
- ［**ISO 感度設定**］（116）は撮影モードが **P**、**S**、**A** の場合、明るさに応じて自動的に設定されます。**M**（マニュアル露出）モードの場合、ISO 感度は 400 に固定されます。

インターバル撮影

あらかじめ設定した撮影間隔（インターバル）で、静止画を自動的に連続撮影します（119）。

連写モードの設定は、撮影時の画面で確認できます（［**単写**］のときは、何も表示されません）（8）。

連写についてのご注意

- 画質や画像サイズ、SDカードの種類により、最大連写速度が遅くなることがあります。
- ［**連写**］または［**BSS**］に設定して、シャッターボタンを全押ししていても、内蔵フラッシュをポップアップまたは収納すると、撮影が中止されますのでご注意ください。

BSSについてのご注意

BSSは静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

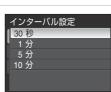
マルチ連写についてのご注意

マルチ連写では、画面内に太陽や電灯などの輝度の高い被写体があると、記録した画像の上下方向に光の帯が発生することがあります。マルチ連写では、太陽や電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

シャッタースピードについてのご注意

［**連写**］を［**マルチ連写**］にすると、シャッタースピードの最大速度は1/2500秒になり、最長は1/30 秒に制限されます。

インターバル撮影の使い方

撮影間隔（インターバル）を決めて、静止画を自動的に連続撮影します。
撮影間隔は、［**30 秒**］、［**1 分**］、［**5 分**］または［**10 分**］に設定できます。

1 マルチセレクターで連写画面の［**インターバル撮影**］を選び、Ⓚボタンを押す

2 撮影間隔を選び、Ⓚボタンを押す

- インターバル撮影できる最大コマ数は、撮影間隔によって異なります。
  - ［**30 秒**］：600コマ
  - ［**1 分**］：300コマ
  - ［**5 分**］：60コマ
  - ［**10 分**］：30コマ

3 MENUボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

4 シャッターボタンを全押しして、1コマ目の撮影を開始する

- 撮影の合間は、液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次のコマの撮影直前になると、自動的に液晶モニターが再点灯します。

5 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影コマ数が上限に達すると、撮影が自動的に終了します。

インターバル撮影についてのご注意

- 途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-62Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-62A以外のACアダプターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- インターバル撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

BKT　ブラケティング

P、**S**、**A**、**M**に設定 ➔ MENU ➔ **P**、**S**、**A**、**M**（撮影メニュー）（□105）➔ ブラケティング

露出を少しずつずらした連続撮影をカメラが自動的に行います。露出補正（□39）を行うのが難しいときに使用すると便利です。

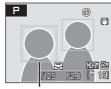
±0.3	±0.3
	0、+ 0.3、− 0.3 の順で自動的に露出をずらしながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
±0.7	±0.7
	0、+ 0.7、− 0.7 の順で自動的に露出をずらしながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
±1.0	±1.0
	0、+ 1.0、− 1.0 の順で自動的に露出をずらしながら、3コマの画像を撮影します。シャッターボタンを全押しすると、3コマを連続して撮影します。
OFF	OFF（**初期設定**）
	ブラケティングを行いません。

ブラケティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（□8）。

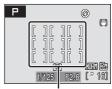
ブラケティングについてのご注意

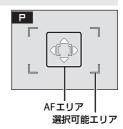
- **M**（マニュアル露出）モードの場合、［**ブラケティング**］は使えません。
- 露出補正（□39）と［**ブラケティング**］の［**±0.3**］、［**±0.7**］、［**±1.0**］のいずれかを同時に設定すると、補正量を加算します。

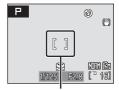
AFエリア選択

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ **P、S、A、M**(撮影メニュー)(105) ➔ AFエリア選択

画面のどの位置でピントを合わせるかを設定します。
電子ズーム使用時は、［**AFエリア選択**］の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。

顔認識オート

カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔にピントが合います(顔認識撮影について→123)。
複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［**オート**］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。

オート（初期設定）

9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアにピントが合います。
シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。
半押しすると、ピントが合ったAFエリアが画面に表示されます。

マニュアル

画面内の99カ所から、ピントを合わせたい位置を自分で選びます。
比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。マルチセレクターの▲▼◀▶を押して、画面に表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。
フラッシュモードやフォーカスモード、セルフタイマー、露出補正の設定を変更するには、Ⓚボタンを押していったんAFエリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。もう一度Ⓚボタンを押すと、再びAFエリアを選べる状態になります。

- ［**画像サイズ**］(108) が［**2992×2992**］のときは、選べる AF エリアの位置は 81 カ所になります。

[■]　中央

画面中央の被写体にピントが合います。
AFエリアが画面中央に常に表示されます。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→29

顔認識撮影について

人物の顔（正面）にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。

以下のような場合は、顔認識機能が働きます。

- AFエリア選択が［**顔認識オート**］のとき（122）
- シーンモードが［**ポートレート**］（40）または［**夜景ポートレート**］（42）のとき
- おまかせシーンモードのとき（52）
- （笑顔自動シャッター）または（目つぶり軽減）を設定したとき（54）

1 構図を決める

- カメラが人物の顔（正面）を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれます。

- 複数の顔を認識したときは、撮影モードによって以下のように動作が変わります。

撮影モード	二重枠で囲まれる顔	認識する顔の数
P、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**モード（［**顔認識オート**］）	カメラに最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大12人
シーンモードの［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］		
おまかせシーンモード		
（笑顔自動シャッター） （目つぶり軽減）	画面中央に最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大3人

撮影、再生、セットアップメニューを使う

2 シャッターボタンを半押しする

- 二重枠で囲まれた顔にピントが合います。二重枠が緑色になりピントが固定されます。
- 二重枠が点滅しているときは、顔にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- シャッターボタンを全押しすると、シャッターがきれます。
- 〔笑顔自動シャッター〕（笑顔自動シャッター）および〔目つぶり軽減〕（目つぶり軽減）では、シャッターボタンを全押しすると、笑顔を検出したときに自動的にシャッターがきれます（□54）。
- セットアップメニューの［**目つぶり検出設定**］が［**ON**］（初期設定）のときは、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があると、撮影した直後に目つぶり確認画面が表示されます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます（□149、150）。撮影画面に戻るにはOKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しします。

顔認識についてのご注意

- ［**顔認識オート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、［**AFエリア選択**］は、［**オート**］になります。
- シーンモードの［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- 顔の向きなど撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□29）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、オート撮影モードにするか、撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**でAFエリア選択を［**マニュアル**］か［**中央**］に切り換えて、同距離にある別の被写体にピントを合わせるフォーカスロック撮影（□29）をお試しください。
- 顔認識して撮影した画像は、1コマ表示およびサムネイル表示で再生すると、顔の上下方向に合わせて自動的に回転して表示されます。

AFモード（オートフォーカスモード）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（105）➔ AFモード

ピントの合わせ方を設定します。

シングルAF（初期設定）

シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。

常時AF

シャッターボタンを半押しするまで、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。

調光補正

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（105）➔ 調光補正

背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。

－0.3～－2.0

－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。

0.0（初期設定）

調光補正を行いません。

+0.3～+2.0

0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。

調光補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（[**0.0**] のときは、何も表示されません）（8）。

NR ノイズ低減

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□105）➔ ノイズ低減

暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、画像にノイズが入る場合があります。このノイズを低減する設定を行います。ノイズ低減処理が行われると、撮影開始から内蔵メモリー/SDカードへ画像が記録されるまでの時間が、通常より長くかかります。

AUTO	**AUTO（初期設定）**
	ノイズが発生するような遅いシャッタースピードになると、ノイズ低減を行います。
NR	ON
	1/4秒以上の低速シャッタースピードのときに必ずノイズ低減を行います。低速シャッタースピードで撮影するときは、［**ON**］にすることをおすすめします。 ・ノイズ低減の設定が［**ON**］のときは、［**マルチ連写**］は使えません。

ノイズ低減が行われるときは、撮影時の画面でNRのマークが点灯します（□8）。

ゆがみ補正

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□105）➔ ゆがみ補正

ゆがみを補正するかどうかを設定します。ゆがみを補正すると、ゆがみを補正しない場合に比べて、撮影範囲が狭くなります。

	ON
	レンズの特性で画像周辺部に生じるゆがみを補正します。 ・［**ゆがみ補正**］の設定を［**ON**］にすると、［**連写**］は［**単写**］に、［**ブラケティング**］は［**OFF**］に変更されます。 ・（目つぶり軽減）を使った撮影では、［**ゆがみ補正**］が［**ON**］でも、ゆがみ補正は作動しません。
OFF	**OFF（初期設定）**
	ゆがみを補正しません。

ゆがみ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（□8）。

同時に設定できない機能

撮影モード**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**では、以下のように、複数の機能を同時に設定できないことがあります。

フラッシュモード

- フォーカスモードを ▲（遠景 AF）にする、［**連写**］の設定を［**連写**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］にする、または［**ブラケティング**］を［**OFF**］以外にすると、フラッシュモードは ⊛（発光禁止）に固定されます。
- フォーカスモードを ▲（遠景 AF）以外にする、［**連写**］の設定を［**単写**］か［**インターバル撮影**］にする、または［**ブラケティング**］を［**OFF**］にすると、元のフラッシュモードに戻ります。

セルフタイマー /笑顔自動シャッター /目つぶり軽減

- セルフタイマー、☺（笑顔自動シャッター）、◎（目つぶり軽減）を設定すると、［**連写**］の設定は［**単写**］として、［**ブラケティング**］の設定は［**OFF**］として動作します。
- セルフタイマー、☺（笑顔自動シャッター）、◎（目つぶり軽減）を［**OFF**］にする（またはセルフタイマー撮影、笑顔自動撮影が完了する）と、［**連写**］および［**ブラケティング**］の設定が有効になります。
- 撮影モードが **P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2** の場合、［**仕上がり設定**］の［**白黒**］で［**カラー同時記録**］を設定しているときは、◎（目つぶり軽減）を設定できません。

フォーカスモード

- フォーカスモードが ▲（遠景 AF）、✿（マクロ AF）、MF（マニュアルフォーカス）のときに ☺（笑顔自動シャッター）または ◎（目つぶり軽減）を設定すると、フォーカスモードが AF（通常 AF）に変更されます。
- ［**AF エリア選択**］の設定が［**顔認識オート**］のときにフォーカスモードを ▲（遠景 AF）にすると、［**オート**］に変更されます。フォーカスモードを ▲（遠景 AF）以外にすると、［**顔認識オート**］に戻ります。

仕上がり設定

- ［**仕上がり設定**］を［**白黒**］にすると、［**ホワイトバランス**］は［**オート**］になります。［**仕上がり設定**］を［**白黒**］以外にすると、元の［**ホワイトバランス**］の設定に戻ります。
- ［**仕上がり設定**］の［**白黒**］で［**カラー同時記録**］のチェックボックスをオンにすると、［**連写**］は［**単写**］に、［**ブラケティング**］は［**OFF**］に変更されます。［**カラー同時記録**］のチェックボックスをオフにしても、［**連写**］は［**単写**］、［**ブラケティング**］は［**OFF**］のままです。
- ［**Active D- ライティング**］の設定を［**OFF**］以外にすると、［**カスタマイズ**］と［**白黒**］の［**カスタマイズ**］の［**コントラスト**］は［**オート**］になります。

ISO感度設定

- ［**ISO 感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、［**画像サイズ**］の［**4000 × 3000**］、［**3264 × 2448**］、［**2592 × 1944**］、［**3984 × 2656**］、［**3968 × 2232**］、［**2992×2992**］は選べません。
  これらの画像サイズのときに［**ISO 感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］にすると、［**2048 × 1536**］に変更されます。［**ISO 感度設定**］を［**3200**］または［**6400**］以外にすると、元の画像サイズに戻ります。
- ［**ISO 感度設定**］を［**高感度オート**］または［**1600**］以上にすると、アクティブ D- ライティングは［**OFF**］になります。

測光方式

［**Active D-ライティング**］の設定を［**OFF**］以外にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］になります。

連写

- ［**連写**］の設定を［**単写**］以外にすると、［**ブラケティング**］は［**OFF**］に変更されます。
- ［**マルチ連写**］にすると、［**画質**］は［**NORMAL**］、［**画像サイズ**］は［**2592 × 1944**］に固定されます。
  撮影モードが **P**、**S**、**A** の場合、［**ISO 感度設定**］は明るさに応じて自動的に設定されます。撮影モードが**M**の場合、ISO感度は400に固定されます。
  ［**連写**］の設定を［**マルチ連写**］以外にすると、元の［**画質**］、［**画像サイズ**］、［**ISO 感度設定**］に戻ります。

ブラケティング

［**ブラケティング**］の設定を［**OFF**］以外にすると、［**連写**］は［**単写**］に、フラッシュモードは（発光禁止）に変更されます。

AFエリア選択

- ［**測光方式**］の設定が［**AF スポット**］のときに［**AF エリア選択**］の設定を［**中央**］にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］になります。
- ［**AF エリア選択**］の設定を［**中央**］以外にすると、［**測光方式**］は［**AF スポット**］に戻ります。

ノイズ低減

［**連写**］の設定が［**マルチ連写**］のときに［**ノイズ低減**］を［**ON**］にすると［**連写**］は［**単写**］に変更されます。

ゆがみ補正

- ［**ゆがみ補正**］の設定を［**ON**］にすると、［**連写**］は［**単写**］に、［**ブラケティング**］は［**OFF**］に変更されます。
  ［**ゆがみ補正**］の設定を［**OFF**］に戻しても、［**連写**］は［**単写**］のまま、［**ブラケティング**］は［**OFF**］のままです。
- （目つぶり軽減）を使った撮影では、［**ゆがみ補正**］が［**ON**］でも、ゆがみ補正は作動しません。

再生に関する設定─再生メニュー

再生メニューには、以下の項目があります。

	簡単レタッチ	75
	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成できます。	
	D-ライティング	76
	撮影した画像の暗い部分を明るく補正します。	
	プリント指定	103
	プリンターでプリントする画像や、その枚数などを設定します。	
	スライドショー	131
	内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	
	削除	132
	画像を削除します。	
	プロテクト設定	132
	大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	
	画像回転	133
	撮影した画像の向きを変更します。	
	非表示設定	133
	撮影した画像をカメラで再生できないように設定します。	
	スモールピクチャー	78
	撮影した画像から、小さいサイズの画像を新しく作ります。	
	画像コピー	134
	内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	
	黒フレーム	79
	撮影した画像に黒い枠を付けた画像を新しく作ります。	

再生メニューの表示方法

MENUボタンを押して▶タブを選び、再生メニューを表示します（13）。

- メニューの選択と設定にはマルチセレクターを使います（12）。
- 再生メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

画像選択画面の操作方法

以下のメニューでは、画像選択時に右のような画面が表示されます。

- **再生メニュー**：簡単レタッチ※（□75）、
  D-ライティング※（□76）、
  プリント指定の［**複数画像選択**］（□103）、
  削除の［**削除画像選択**］（□132）、
  プロテクト設定（□132）、
  画像回転（□133）、
  非表示設定（□133）、
  スモールピクチャー※（□78）、
  画像コピーの［**選択画像コピー**］（□134）、
  黒フレーム※（□79）、
- **セットアップメニュー**：オープニング画面（□137）

※ 再生モード以外で再生メニューを表示したとき（□13）にメニュー項目を選ぶと表示されます。

以下の手順で画像を選びます。

1 マルチセレクターの◀ ▶を押して、画像を選ぶ

- マルチセレクターの ◀ ▶ を押すかわりに、コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ［**簡単レタッチ**］、［**D-ライティング**］、［**画像回転**］、［**スモールピクチャー**］、［**黒フレーム**］と［**オープニング画面**］の画像選択では、1画像しか選べません。→手順3へ
- ズームレバーを**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。

2 ▲▼を押してON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ON にすると、選択画像にチェックマークが表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 Ⓚボタンを押して画像選択を決定する

スライドショー

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□129）➔ スライドショー

内蔵メモリー/SDカードに記録した画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 マルチセレクターで［**開始**］を選び、OK ボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［**開始**］を選ぶ前に［**インターバル設定**］を選んでOKボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［**開始**］を選ぶ前に［**エンドレス**］を選んでOKボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にマルチセレクターの ▶ を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 再生中にOKボタンを押すと一時停止します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中に［**終了**］を選び、OK ボタンを押すと再生メニューに戻ります。［**再開**］を選ぶとスライドショーを再開します。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

スライドショーについてのご注意

- 動画（□86）は1フレーム目だけを表示します。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大約30分です（□146）。

🗑 削除

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□129）➔ 🗑 削除

画像を削除します。

削除画像選択	
	画像選択の画面で、画像を選んで削除します（操作方法→□130）。
全画像削除	
	すべての画像を削除します。

☑ 画像削除についてのご注意

- 削除した画像はもとに戻せないため、ご注意ください。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- ⊶マークが表示されている画像は、プロテクト（保護）されているので削除されません。

⊶ プロテクト設定

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□129）➔ ⊶ プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。
画像選択の画面で、画像を選んで設定します（操作方法→□130）。
ただし、内蔵メモリー /SDカードを初期化（フォーマット、□147）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時に⊶マーク（□9、72）が表示されます。

画像回転

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□129）➔ 画像回転

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。静止画を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。
撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。

画像選択の画面で回転する画像を選ぶ（□130）と、画像回転画面が表示されます。マルチセレクターの◀または▶を押すと90度回転します。

反時計方向に
90度回転

時計方向に
90度回転

OKボタンを押すと、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。

非表示設定

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□129）➔ 非表示設定

撮影した画像をカメラで再生できないように設定します。
画像選択の画面で、画像を選んで設定します（操作方法→□130）。
非表示設定した画像は［**削除**］では削除されません。ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、□147）すると、非表示設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

画像コピー

MENUボタンを押す → ▶（再生メニュー）（□129）→ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 マルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

- IN→□：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- □→IN：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、OKボタンを押す

- ［**選択画像コピー**］：画像選択の画面（□130）で、画像を選んでコピーします。
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできる画像ファイルの形式は、JPEG、AVI、WAVです。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 画像コピーでは、画像に付けた「音声メモ」（□80）も画像と同時にコピーします。
- 「音声レコード機能」（□87）で録音したデータは、［**音声データコピー**］でコピーできます（□91）。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（□103）した画像をコピーしても、プリント指定の設定内容はコピーされません。［**プロテクト設定**］（□132）した画像をコピーすると、コピー先の画像もプロテクトされます。
- ［**非表示設定**］（□133）した画像はコピーできません。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されますが、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□156

カメラに関する基本設定—セットアップメニュー

セットアップメニューには、以下の項目があります。

項目	説明	参照
オープニング画面	電源をONにしたときに表示される「オープニング画面」について設定します。	137
日時設定	内蔵時計を合わせます。	138
モニター設定	撮影後の画像表示や画面の明るさを設定します。	141
デート写し込み	画像に撮影日時を写し込む設定ができます。	142
手ブレ補正	静止画の撮影時の手ブレ補正を設定します。	143
モーション検知	静止画の撮影時に被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。	144
AF補助光	AF補助光の点灯/非点灯を設定します。	145
電子ズーム	電子ズームの動作を設定します。	145
操作音	操作音について設定します。	146
オートパワーオフ	待機状態に入るまでの時間を設定します。	146
メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット）	内蔵メモリー /SDカードを初期化します。	147
言語/Language	画面に表示する言語を設定します。	148
ビデオ出力	テレビとの接続に必要な設定を行います。	148
目つぶり検出設定	顔認識撮影したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。	149
設定クリアー	各種設定を初期状態に戻します。	151
連番リセット	ファイル番号の連番をリセットします。	154
バージョン情報	ファームウェアの情報を表示します。	154

セットアップメニューの表示方法

メニュー画面を表示して、Y（セットアップ）タブを選びます。

1 MENU ボタンを押してメニュー画面を表示する

2 マルチセレクターの◀を押す

- タブが選べるようになります。

3 ▲▼を押してYタブを選ぶ

4 ▶または㉿ボタンを押す

- セットアップメニューの項目が選べるようになります。
- メニューの選択と設定には、マルチセレクターを使います（□12）。
- セットアップメニューを終了するには、MENU ボタンを押すか、◀を押して撮影または再生のタブを選びます。

オープニング画面

MENUボタンを押す ➔ ﾀ（セットアップメニュー）（□135）➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに液晶モニターに表示するオープニング画面を設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しません。

COOLPIX

オープニング画面を表示します。

撮影した画像

内蔵メモリー/SDカードの画像を、オープニング画面として登録できます。
画像選択の画面で画像を選び（□130）、Ⓚボタンを押します。
登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。

- ［**画像サイズ**］（□108）を［**3984 × 2656**］、［**3968 × 2232**］、［**2992×2992**］にして撮影した画像や［**高速連写 H 16:9**］（□58）で撮影した画像は登録できません。
- トリミング（□77）やスモールピクチャー（□78）で作成した画像サイズ 160 × 120 以下の画像は登録できません。

⊕ 日時設定

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□135）➔ 日時設定

カメラに内蔵された時計を設定します。
海外旅行などに便利なワールドタイム（時差を自動的に計算する機能）も設定できます。

日時
内蔵時計の日付と時刻を設定します。 表示される設定画面の操作方法は以下のとおりです。 • ◀▶：項目（年、月、日、時、分、年月日の並び順）を移動します。 • ▲▼：項目の内容を合わせます。 • ⓚ：設定が有効になります。
ワールドタイム
自宅（⌂）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（⌂）との時差（□140）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 マルチセレクターで［ワールドタイム］を選び、ⓚボタンを押す

• ワールドタイム画面が表示されます。

2 ［✈ 訪問先］を選び、ⓚボタンを押す

• 訪問先の時計に切り換わります。

3 ▶を押す

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶を押して訪問先のタイムゾーン（都市名）を選ぶ

- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、▲を押して画面上部に夏時間マークを表示します。夏時間の設定がオンになり、時間が1時間進みます。オフにするときは、▼を押してください。
- Ⓚボタンを押して、訪問先を決定します。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に訪問先マークが表示されます。

バックアップ用電池について

カメラの内蔵時計は、カメラのバッテリーとは別のバックアップ用電池で動いています。カメラにバッテリーを入れるかACアダプターを接続すると、バックアップ用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で［**自宅**］を選び、Ⓚボタンを押してください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で［**自宅**］を選び、［**訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）が始まったときや終わったときは、手順4の地域設定画面で、夏時間のオンとオフを切り換えてください。

撮影、再生、セットアップメニューを使う

タイムゾーンについて（□20）

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**日時設定**］で合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）
–13	Caracas, Manaus（カラカス、マナウス）
–12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）
–10	Azores（アゾレス）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）

時差 +/–	タイムゾーン
–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
–6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

モニター設定

MENUボタンを押す ➔ （セットアップメニュー）（135）➔ モニター設定

以下の項目を設定します。

撮影後の画像表示

［**ON**］（初期設定）：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。

［**OFF**］：撮影直後に、撮影した画像を表示しません。

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。

DATE デート写し込み

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□135）➔ デート写し込み

画像に直接日時を写し込みます。日付の印字（□104）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

OFF（初期設定）

日付、時刻のどちらも写し込みません。

年・月・日

撮影した画像の右下に、日付を写し込みます。

年・月・日・時刻

撮影した画像の右下に、日付と時刻を写し込みます。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（□8）。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- ［**画像サイズ**］（□108）が［**640×480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像サイズは［**1024×768**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**日時設定**］（□20、138）での設定と同じになります。
- 以下の場合は、日時を写し込めません（□167）。
  - シーンモードの［**ミュージアム**］または［**パノラマアシスト**］のとき
  - ［**連写**］（□118）が［**連写**］または［**BSS**］のとき
  - ［**ブラケティング**］（□121）が［**OFF**］以外のとき
  - （目つぶり軽減）（□55）のとき
  - スポーツ連写モードのとき
  - 動画モードのとき

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（□103）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

手ブレ補正

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□135）➔ 手ブレ補正

静止画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。
手ブレ補正機能は、望遠側での撮影やスローシャッター撮影時に起こりがちな手ブレを効果的に補正します。
三脚などでカメラを固定させて撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

ON（初期設定）

静止画撮影時の手ブレを補正します。また、流し撮りでは、カメラが流し撮りの方向を自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。
たとえば、横方向に流し撮りするときには縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りするときには横方向の手ブレだけが補正されます。

OFF

手ブレ補正を行いません。

手ブレ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（□8）。

手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。

動画の手ブレ補正について

微速度撮影以外の動画撮影時の手ブレ補正は、動画メニュー（□82）の［**電子式手ブレ補正**］（□84）で設定します。

モーション検知

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖135）➔ モーション検知

静止画の撮影時に被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

AUTO

カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにシャッタースピードが速くなります。
ただし、以下の場合は［**AUTO**］に設定していてもモーション検知は作動しません。
- フラッシュが強制発光のとき
- 一部のシーンモード（📖41 ～ 47）のとき
- 撮影モード **P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2** のとき
- スポーツ連写モードのとき

OFF（初期設定）

モーション検知をしません。

モーション検知の設定は、撮影時の画面で確認できます（［**OFF**］のときは、何も表示されません）（📖8）。
カメラがブレを察知してシャッタースピードを速くしたときは、モーション検知表示は緑色に変わります。

✔ モーション検知のご注意

- モーション検知を設定しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にブレているときや暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

AF補助光

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（135）➔ AF補助光

AF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約4 m、望遠側で約2.2 mです。ただし、［**AUTO**］に設定していても、一部のシーンモードではAF補助光が点灯しません（41～46）。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがありますので、ご注意ください。

電子ズーム

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（135）➔ 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

ON（初期設定）

光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズーム（27）が作動します。

クロップ

電子ズームによる画質の劣化が発生しない範囲内に電子ズームの倍率を制限します。

OFF

電子ズームは作動しません（動画撮影時を除く）。

電子ズームについてのご注意

- 電子ズームの作動中はAFエリア（122）が［**中央**］に固定されます。
- 以下の場合、電子ズームは使えません。
  - フォーカスモード（36）がMF（マニュアルフォーカス）のとき
  - （笑顔自動シャッター）または（目つぶり軽減）のとき（54）
  - シーンモードが［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］または［**打ち上げ花火**］のとき
  - おまかせシーンモードのとき
  - ［**連写**］（118）が［**マルチ連写**］のとき
  - 動画撮影開始前（微速度撮影以外の動画撮影中は2倍まで作動）
- 電子ズームが1.2～1.8倍のときには、［**測光方式**］は［**中央部重点**］に、2.0～4.0倍のときには［**スポット**］になります。

🔊 操作音

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖135）➔ 操作音

操作音について設定します。

設定音

設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）、警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）およびオープニング音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

シャッター音

シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

⏲ オートパワーオフ

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖135）➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま何も操作しないで一定時間が過ぎると、カメラはバッテリーの消耗を抑えるために液晶モニターを消灯し、待機状態（📖19）に入ります。待機状態になると、電源ランプが点滅し、何も操作しないでさらに約3分経過すると、自動的に電源がOFFになります。
このメニューでは、カメラが無操作時に待機状態に入るまでの時間を［**30 秒**］、［**1 分**］（初期設定）、［**5 分**］、または［**30 分**］から選べます。

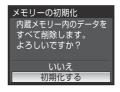
待機状態の解除

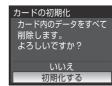
電源スイッチ、シャッターボタンまたは▶ボタンを押すか、モードダイヤルを回すと、待機状態を解除できます。

オートパワーオフについてのご注意

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。

- メニュー表示中：3分
- スライドショー再生中:最大30分
- ACアダプター接続中:30分

🄸/🄲 メモリー /カードの初期化（フォーマット）

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□135）
➔ メモリーの初期化/カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

☑ 初期化についてのご注意

- 内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、内蔵メモリー/SDカード内のデータはすべて削除されます。必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラで初めて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

MENUボタンを押す ➔ （セットアップメニュー）（135）➔ 言語/Language

画面に表示される言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

ビデオ出力

MENUボタンを押す ➔ （セットアップメニュー）（135）➔ ビデオ出力

テレビとの接続に必要な設定を行います。
ビデオの出力方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。［**NTSC**］と［**PAL**］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

目つぶり検出設定

MENUボタンを押す ➔ （セットアップメニュー）（135）➔ 目つぶり検出設定

（笑顔自動シャッター）/（目つぶり軽減）（54）以外で顔認識撮影（123）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

ON（初期設定）

顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに目つぶり確認画面を表示します。
目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
→「目つぶり確認画面の操作方法」（150）

OFF

目つぶり検出をしません。

目つぶり検出設定についてのご注意

- 以下の場合は、目つぶり検出をしません。
  - （笑顔自動シャッター）（54）のとき
  - ［**連写**］が［**連写**］、［**BSS**］、［**マルチ連写**］または［**インターバル撮影**］のとき
  - フォーカスモードが（マクロAF）のとき
- （目つぶり軽減）で自動撮影するときは、［**目つぶり検出設定**］にかかわらず、笑顔を検出するたびに自動的に2コマ連写し、人物が目をつぶっていない画像を優先して1コマだけ記録します（55）。

目つぶり確認画面の操作方法

（笑顔自動シャッター）/（目つぶり軽減）（55）以外の撮影で目つぶり確認画面が表示されたときは、以下の操作ができます。
何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

機能	ボタン	内容
検出した顔を拡大表示する	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。
1コマ表示に戻る	**W**（）	ズームレバーを**W**（）方向に回します。
表示する顔を切り換える	OK	複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に◀▶を押すと、拡大表示する顔が切り換わります。
撮影した画像を削除する		ボタンを押します。
撮影画面に戻る	OK / シャッターボタン	OK ボタンまたはシャッターボタンを押します。

C 設定クリアー

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□135）➔ 設定クリアー

［はい］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（□32）	自動発光
セルフタイマー /笑顔自動シャッター /目つぶり軽減（□35、54）	OFF
フォーカスモード（□36）	通常AF
露出補正（□39）	0.0

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（□40）	ポートレート
料理モードのホワイトバランス設定（□48）	中央

動画メニュー

項目	初期設定
動画設定（□82）	TV再生 640★
微速度撮影のインターバル設定（□84）	30 秒
AFモード（□83）	シングルAF
電子式手ブレ補正（□84）	ON

スポーツ連写メニュー

項目	初期設定
高速連写設定（□58）	高速連写 H
先取り撮影（□58）	OFF
画質（□58）	NORMAL
画像サイズ（□58）	3M 2048×1536

撮影メニュー

項目	初期設定
画質（□107）	NORMAL
画像サイズ（□108）	12M 4000×3000
仕上がり設定（□111）	標準
仕上がり設定のカスタマイズ（□112）	コントラスト：オート 輪郭強調：オート 彩度調整：オート
仕上がり設定の白黒のカスタマイズ（□113）	コントラスト：オート 輪郭強調：オート モノクロフィルター：OFF カラー同時記録：OFF
ホワイトバランス（□114）	オート
ISO感度設定（□116）	オート
感度制限オート（□116）	ISO 64-100
測光方式（□117）	マルチパターン
連写（□118）	単写
インターバル撮影のインターバル設定（□119）	30 秒
ブラケティング（□121）	OFF
AFエリア選択（□122）	オート
AFモード（□125）	シングルAF
調光補正（□125）	0.0
ノイズ低減（□126）	AUTO
ゆがみ補正（□126）	OFF
Active D-ライティング（□70）	OFF

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（□137）	なし
撮影後の画像表示（□153）	ON
画面の明るさ（□153）	3
デート写し込み（□142）	OFF
手ブレ補正（□143）	ON
モーション検知（□144）	OFF
AF補助光（□145）	AUTO
電子ズーム（□145）	ON
設定音（□146）	ON
シャッター音（□146）	ON
オートパワーオフ（□146）	1 分
目つぶり検出設定（□149）	ON

その他

項目	初期設定
用紙設定（□99、100）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（□131）	3 秒

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（□156）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SDカード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。内蔵メモリー/SDカード内の画像をすべて削除（□132）してから、［**設定クリアー**］をすると、次に撮影する画像の連番は「0001」から始まります。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  撮影メニュー：［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（□115）
  セットアップメニュー：［**日時設定**］（□138）、［**言語/Language**］（□148）、［**ビデオ出力**］（□148）
- モードダイヤル**U1**、**U2**に登録したユーザーセッティングの内容は、［**設定クリアー**］では初期設定に戻りません。［**User Setting リセット**］（□69）で初期設定に戻してください。

R 連番リセット

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□135）➔ 連番リセット

［**はい**］を選ぶと、ファイル番号の連番（□156）をリセットします。リセットすると新しい記録フォルダーが作られ、次に撮影する画像の連番は、「0001」から始まります。

連番リセットのご注意

- シーンモードが［**パノラマアシスト**］、［**音声レコード**］のとき、または撮影モードが**P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2**で、［**連写**］の設定が［**インターバル撮影**］のときは［**連番リセット**］ができません。
  ［**パノラマアシスト**］または［**インターバル撮影**］では、撮影のたびに新しいフォルダーが作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます（□156、157）。
- フォルダー番号が999に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、［**連番リセット**］ができません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（□147）する必要があります。

Ver. バージョン情報

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□135）➔ バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

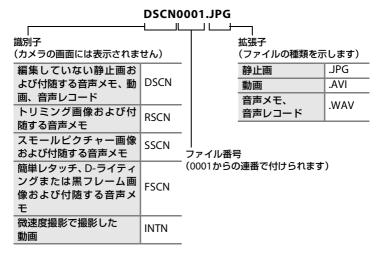
別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL5
充電器	バッテリーチャージャー MH-61※
ACアダプター	ACアダプター EH-62A※ ＜EH-62Aの取り付け方＞ 1 2 3 バッテリー /SDカードカバーを閉める前に、ACアダプターのコードがバッテリー室の溝に入っていることを必ず確認してください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーを破損する恐れがあります。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP14
レンズキャップ	レンズキャップ LC-CP19

※ 日本国内専用の電源コード（AC 100 V 対応）付属。日本国外で使うには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/でもお求めいただけます。

推奨SDカード

以下のSDカードの動作を確認しています。

- 以下の容量のSDカードであれば、内部データ転送速度にかかわらず使用できます。

SanDisk	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8GB※2、16GB※2
TOSHIBA	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8GB※2、16GB※2
Panasonic	512 MB、1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8GB※2、16GB※2
Lexar	1 GB、2 GB※1、4 GB※2、8GB※2

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

上記カードの機能、動作の詳細については、各カードメーカーにお問い合わせください。最新の動作確認済みSDカードについては、当社ホームページのサポート情報をご覧ください。

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声ファイルには、以下のようなファイル名が付けられます。

識別子	
編集していない静止画および付随する音声メモ、動画、音声レコード	DSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
スモールピクチャー画像および付随する音声メモ	SSCN
簡単レタッチ、D-ライティングまたは黒フレーム画像および付随する音声メモ	FSCN
微速度撮影で撮影した動画	INTN

拡張子	
静止画	.JPG
動画	.AVI
音声メモ、音声レコード	.WAV

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号 + NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときや［**連番リセット**］（□154）したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
  フォルダー内にファイルがないときは、［**連番リセット**］をしても新しいフォルダーは作られません。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。
- 音声レコード（□87）のデータは「SOUND」フォルダーに保存されます。
- パノラマアシストモード（□50）では、撮影のたびに「フォルダー番号+P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。

- インターバル撮影（□119）では撮影のたびに「フォルダー番号 ＋ INTVL」という名前のフォルダー（例：101INTVL）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- 画像データや音声データを内蔵メモリーとSDカードの間でコピーする場合（□91、134）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」または「選択データコピー」：
    使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」または「全データコピー」：
    データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が 999 のときにファイル数が 200 個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（□147）してください。

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ/電子ビューファインダー

レンズや電子ビューファインダーのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。次の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50 ℃以上、または－10 ℃以下の場所
- 湿度が60 %を超える場所

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください
カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください
カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバックやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には
カメラを長期間お使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください
電源がONの状態で、バッテリーやACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて
- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターが傷つく原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● スミアーについて
明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニターに色のついた光の帯が表れることがあります。この現象をスミアーといいますが、故障ではありません。
高速連写H 16:9、高速連写H、マルチ連写および動画以外の撮影では、記録される画像にスミアーの影響はありません。
高速連写H 16:9、高速連写H、マルチ連写および動画の撮影では、太陽や電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

バッテリーについて

● 使用上のご注意

- 長時間お使いになったバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
- 周囲の温度が 0～40 ℃ の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能劣化や故障の原因となります。
- 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

撮影の前に、充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんので、ご注意ください。

- 周囲の温度が 5～35 ℃ の室内で充電してください。
- バッテリーの温度が 0～10 ℃ 、45～60 ℃のときは、充電できる容量が少なくなることがあります。バッテリーの温度が 0 ℃ 以下、60 ℃ 以上のときは、充電をしません。
- 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください。バッテリー性能が劣化します。
- 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。
- カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因となります。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、予備バッテリーをご用意ください。特に、日本国外の地域によっては入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

● 低温時のバッテリーについて

バッテリーは一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には容量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーを用意する

消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが作動しないことがあります。低温時の撮影には充分に充電したバッテリーと予備のバッテリーを用意してください。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリー接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがありますので、ご注意ください。汚れた接点は、乾いた布できれいに拭いてからお使いください。

● 残量について

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

- バッテリーをお使いにならないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。カメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れ続けることで過放電になり、使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15～25 ℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

● 寿命について

充分に充電したにもかかわらず、バッテリーの使用期間が極端に短くなってきたときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion 00

数字の有無と数値は電池によって異なります。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	📖
（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	138
	電池の残量が少なくなりました。	バッテリーを充電または交換する準備をしてください。	16、18
電池残量がありません	電池の残量がありません。	バッテリーを充電または交換してください。	16、18
電池が高温です	バッテリーの温度が高温になっています。	電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。このメッセージが出ると5秒後に液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅を開始します。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	19
カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	23
このカードは使えません	SDカードへのアクセス異常です。	・動作確認済みのカードを使ってください。 ・カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 ・カードが正しく挿入されているか確認してください。	155 22 22
カードに異常があります			
このカードは初期化されていません。初期化しますか？ いいえ はい	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。	［**はい**］を選んでⓄⓀボタンを押し、SDカードを初期化してください。	23
メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	・画質または画像サイズを変更してください。 ・不要な画像や音声データを削除してください。 ・SDカードを交換してください。 ・SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	107、108 30、86、90、132 22 22

付録

表示	意味	対処法	□
画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	147
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	• SDカードを交換してください。 • 内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	22 147
	オープニング画面に登録できない画像です。	[**画像サイズ**]を[**3984×2656**]、[**3968×2232**]または[**2992×2992**]にして撮影した画像、[**高速連写 H 16:9**]で撮影した画像、およびトリミングやスモールピクチャーで作成した画像サイズ160×120以下の画像は登録できません。	58、77、78、107、108
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	132
音声を登録できません	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	• SDカードを交換してください。 • 内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	22 147
記録した画像に目を閉じた人がいるかもしれません	目つぶりを検出した画像を記録しました。	画像を再生して確認してください。	55
この画像は編集できません	編集できない画像を編集しようとしました。	• 簡単レタッチ、D-ライティング、トリミング、スモールピクチャーまたは黒フレームが可能な条件を確認してください。 • 動画は編集できません。	74 –
動画記録できません	SDカードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	155
連番リセットできません	これ以上新しいフォルダーを作成できません。	SDカードを交換するか、内蔵メモリー /SDカードを初期化してください。	22、147、154
撮影画像がありません	撮影済みの画像がありません。	内蔵メモリーからSDカードにコピーする場合は、MENUボタンを押してください。[**画像コピー**]が表示されます。	134
音声データがありません	コピー元に音声データがありません。	コピーする方向を確認してください。	89

表示	意味	対処法	📖
🛈 このファイルは表示できません	このカメラ以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
⚠ このデータは再生できません			
🛈 表示できる画像がありません	スライドショーで表示できる画像がありません。	–	131
	内蔵メモリー/SDカード内の画像がすべて非表示設定されています。	［**非表示設定**］で画像の非表示設定を解除してください。	133
🛈 このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	132
🛈 自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	140
⚠ モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	10
🛈 フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュを上げてください	シーンモードが［**夜景ポートレート**］または［**逆光**］のときに、内蔵フラッシュを閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押して内蔵フラッシュをポップアップしてください。	33、42、46
🛈 フラッシュが閉じています	おまかせシーンモードのときに内蔵フラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押して内蔵フラッシュをポップアップしてください。フラッシュを使いたくないときは、内蔵フラッシュを閉じたままでも撮影できます。	7、52
❗ レンズエラー(レンズキャップが付いているときは、外してから電源を入れなおしてください)	レンズの作動不良です。	レンズキャップが付いているときは、外してから電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	19

表示	意味	対処法	📖
通信エラー	プリンターとの通信中に、USBケーブルが外れました。	カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	94、98
システムエラー	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	19
プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［**キャンセル**］を選んでOKボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※プリンターの使用説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターや電子ビューファインダーに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタンまたは ▶ ボタンを押すか、モードダイヤルを回すと、待機状態を解除できます。 • 液晶モニターと電子ビューファインダーは同時に点灯しません。□ ボタンを押して点灯させたい方に切り換えてください。 • カメラとパソコンが USB ケーブルで接続されています。 • カメラとテレビが AV ケーブルで接続されています。 • 微速度撮影中またはインターバル撮影中です。	19 24 19、31 14 93 92 84、119
液晶モニターがよく見えない	• 周囲の光が明るすぎます。暗い場所に移動するか、電子ビューファインダーをお使いください。 • 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。	14 141 158
電子ビューファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。	14
□ボタンを押してもモニターが液晶モニター（または電子ビューファインダー）に切り換わらない	• 以下の場合、モニターの切り換えはできません。 - 動画の撮影中および再生中 - 音声メモ、音声レコードの録音中および再生中 - プリンターに接続中 - 画像の削除画面の表示中 • 警告内容によっては、警告メッセージの表示中は、モニターの切り換えができません。	 81、86 80、87、89 97 30、31 162
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	24 19 160
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に時計マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00 00:00」、動画の撮影日時や音声レコードの録音日時が「2009/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**日時設定**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	20、138 138

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影情報や画像情報が表示されない	撮影情報、画像情報を非表示にしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで、**DISP**ボタンを押してください。	15
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**日時設定**］が設定されていません。	20、138
［**デート写し込み**］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	以下の場合は日付が写し込まれません。 ・シーンモードが［**ミュージアム**］または［**パノラマアシスト**］になっているとき ・撮影メニュー［**連写**］が［**連写**］、［**BSS**］のとき ・撮影メニュー［**ブラケティング**］が［**OFF**］以外のとき ・（目つぶり軽減）のとき ・スポーツ連写モードのとき ・動画	45、47 118 121 55 56 81
設定内容が初期状態に戻ってしまった	バックアップ用電池が切れたため、設定がリセットされました。	139
［**連番リセット**］ができない	・フォルダー番号が 999 に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、［**連番リセット**］ができません。SD カードを交換するか、内蔵メモリー / SD カードを初期化してください。 ・シーンモードが［**パノラマアシスト**］、［**音声レコード**］のとき、または撮影モードが **P**、**S**、**A**、**M**、**U1**、**U2** で、撮影メニュー［**連写**］が［**インターバル撮影**］のときは［**連番リセット**］ができません。	154、156 154、156
液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅する	バッテリーの温度が高温になっています。電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	19

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ ボタンまたはシャッターボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENU ボタンを押してください。 • バッテリー残量がありません。 • シーンモードが［**夜景ポートレート**］または［**逆光**］になっているときは、内蔵フラッシュをポップアップしてください。 • フラッシュ表示が点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	30 13 24 33、42、46 34
ピントが合わない	• オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。 • シャッターボタンを半押ししたときに、被写体が AF エリア内に入っていません。 • フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）になっています。 • 電源を入れ直してください。	29 145 28、122 36、38 24
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • 手ブレ補正機能やモーション検知機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	32 143 118 35
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	32
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • ◉（目つぶり軽減）になっています。 • フォーカスモードが ▲（遠景 AF）になっています。 • スポーツ連写モードになっています。 • 🎬 モード（［**微速度撮影 640★**］を除く）になっています。 • 撮影メニュー［**連写**］が［**連写**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］になっています。 • 撮影メニュー［**ブラケティング**］が［**OFF**］以外になっています。	32 40 55 36 56 81 118 121
光学ズームが使えない	動画撮影中は使えません。	81

付録

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
電子ズームが使えない	• セットアップメニュー［**電子ズーム**］が［**OFF**］になっています。 • 以下の場合、電子ズームは使えません。 - フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）のとき - （笑顔自動シャッター）または （目つぶり軽減）のとき - シーンモードが［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］または［**打ち上げ花火**］のとき - おまかせシーンモードのとき - 撮影メニュー［**連写**］が［**マルチ連写**］のとき - 動画の撮影開始前（［**微速度撮影 640★**］以外の動画撮影中は 2 倍まで作動）	145 36、38 54、55 41、42、46 52 118 81
［**画像サイズ**］が選べない	• 撮影メニュー［**連写**］が［**マルチ連写**］のときは、設定できません。 • 撮影メニュー［**ISO 感度設定**］が［**3200**］、［**6400**］のとき、またはスポーツ連写モードのときは、［ **4000 × 3000**］、［ **3264 × 2448**］、［ **2592 × 1944**］、［ **3984 × 2656**］、［ **3968 × 2232**］、［ **2992 × 2992**］を選べません。 • ［**高速連写 H 16:9**］のときは、設定できません。	118 58、116 58
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。 • 撮影メニュー［**連写**］が［**連写**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］になっています。 • 撮影メニュー［**ブラケティング**］が［**OFF**］以外になっています。 • シーンモードが［**ミュージアム**］になっています。 • スポーツ連写モードになっています。 • 🎥 モードになっています。 • スピーカーをふさがないでください。	146 118 121 45 56 81 5、26
AF 補助光が点灯しない	• セットアップメニュー［**AF 補助光**］が［**OFF**］になっています。 • 一部のシーンモードでは点灯しません。	145 145
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	158
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスが選ばれていません。	114
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低い ISO 感度にしてください。 • 撮影状況に合わせて、撮影メニュー［**ノイズ低減**］を設定してください。 • ノイズ低減機能付きのシーンモードで撮影してください。	 32 116 126 40

付録

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • 内蔵フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO 感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。内蔵フラッシュをポップアップし、シーンモードの［**逆光**］にするかフラッシュモードを ⚡（強制発光）にして撮影してください。	32 26 32 39 116 32、46
画像が明るすぎる	露出を補正してください。	39
赤目以外の部分が補正された	⚡◎（赤目軽減自動発光）やシーンモードの［**夜景ポートレート**］の赤目軽減スローシンクロ強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［**夜景ポートレート**］以外の撮影モードで、フラッシュモードを⚡◎（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	32、42
マルチ連写できない	• セルフタイマー、☺（笑顔自動シャッター）または ◎（目つぶり軽減）が設定されています。 • 撮影メニュー［**ノイズ低減**］または［**ゆがみ補正**］が［**ON**］のときは、マルチ連写はできません。 • 撮影メニュー［**仕上がり設定**］を［**白黒**］にして［**カラー同時記録**］のチェックボックスをオンにすると、マルチ連写はできません。 • 撮影メニュー［**ブラケティング**］が設定されています。	35、54 126 113 121
仕上がり設定の［**カスタマイズ**］または［**白黒**］の［**カスタマイズ**］の［**コントラスト**］が調整できない	撮影メニュー［**Active D- ライティング**］が［**OFF**］以外になっています。	70、111

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • 微速度撮影中またはインターバル撮影中です。	– 84、119
画像の拡大表示ができない	動画やスモールピクチャー、320×240以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。	–

付録

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • このカメラ以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラでは再生できません。	86 80
簡単レタッチ、D-ライティング、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームができない	• 動画は編集できません。 • ［**画像サイズ**］を［**3984 × 2656**］、［**3968 × 2232**］、［**2992 × 2992**］にして撮影した画像や［**高速連写 H 16:9**］で撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。 • 簡単レタッチ、D- ライティング、トリミング、スモールピクチャー、黒フレームが可能な条件を確認してください。 • このカメラ以外で撮影した画像は編集できません。 • 他のデジタルカメラでは、編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。	86 58、108 74 – –
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**ビデオ出力**］が正しく設定されていません。 • 画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときはSDカードを取り出してください。	148 22
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transferが自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • 対応 OS を確認してください。 • Nikon Transfer が自動起動しない設定になっています。 Nikon Transfer については、Nikon Transfer のヘルプをご参照ください。	24 24 94 — 93 —
プリントする画像が表示されない	画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像をプリントするときはSDカードを取り出してください。	22
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」はできません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	99、100 —

付録

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P90

項目	仕様
型式	コンパクトデジタルカメラ
有効画素数	12.1メガピクセル
撮像素子	1/2.33型原色CCD、総画素数12.7 メガピクセル
レンズ	光学24倍 ズームニッコールレンズ
焦点距離	4.6–110.4mm（35mm判換算26–624mm相当の撮影画角）
絞り	f/2.8–5
レンズ構成	11群14枚
電子ズーム	最大4倍（35mm判換算で約2496mm相当の撮影画角）
手ブレ補正	イメージセンサーシフト方式（静止画） 電子式（動画）
オートフォーカス	コントラスト検出方式、マルチエリアAF可能
撮影距離	• レンズ前約 50 cm ～∞（広角側）、約 1.7 m ～∞（望遠側） • マクロ AF 時は約 10 cm ～∞（🌷 マークが緑色になるズーム位置)、約 1 cm ～∞（△ マークのズーム位置）
AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央、マニュアル（99点）
電子ビューファインダー	カラー液晶ビューファインダー、0.24型TFT液晶、約23万ドット 視度調節機能付き
視野率（撮影時）	上下左右とも約97%（対実画面）
視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
液晶モニター	3型TFT液晶、反射防止コート付き、約23万ドット 輝度調節機能付き（5段階）、 チルト式（下方45°、上方90°可動）
視野率（撮影時）	上下左右とも約97%（対実画面）
視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式	
記録媒体	内蔵メモリー（約47 MB）、SDメモリーカード
画像ファイル	DCF、Exif 2.2、DPOF準拠
ファイル形式	静止画：JPEG-Baseline準拠、圧縮率：FINE（約1/4）、NORMAL（約1/8）、BASIC（約1/16） 動画：AVI 音声：WAV
画像サイズ（記録画素数）	• 4000 × 3000 ［12 M］ • 3264 × 2448 ［8 M］ • 2592 × 1944 ［5 M］ • 2048 × 1536 ［3 M］ • 1600 × 1200 ［2 M］ • 1280 × 960 ［1 M］ • 1024 × 768 ［PC］ • 640 × 480 ［TV］ • 3984 × 2656 ［3:2］ • 3968 × 2232 ［16:9］ • 2992 × 2992 ［1:1］ • 1920 × 1080 ［16:9 2M］

ISO感度（標準出力感度）	・ISO 64、100、200、400、800、1600、3200、6400 ・オート（ISO 64 ～ 800） ・高感度オート（ISO 64 ～ 1600） ・感度制限オート（ISO 64 ～ 100、64 ～ 200、64 ～ 400） ・スポーツ連写モード（ISO 640 ～ 6400）
露出	
測光方式	マルチパターン測光（256分割）、中央部重点測光、スポット測光、AFスポット測光（99点AF対応）
露出制御	プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、ブラケティング、モーション検知機能付き、露出補正（±2段の範囲で1/3段刻み）可能
露出連動範囲（ISO 100）	－1～＋17.5 EV（広角側） 0.7～17.6 EV（望遠側）
シャッター	メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
シャッタースピード	1/2000～8秒、1/4000～1/20秒（［**高速連写 H**］、［**高速連写 H 16:9**］時）
絞り	電磁駆動による6枚羽根虹彩絞り
制御段数	10（1/3 EVステップ）
セルフタイマー	約10秒、約2秒、笑顔自動シャッター、目つぶり軽減
内蔵フラッシュ	
調光範囲（ISO感度設定オート時）	約0.5～8 m（広角側） 約1.7～5 m（望遠側）
調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
インターフェース	Hi-Speed USB
通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
入出力端子	デジタル端子/オーディオビデオ（AV）出力端子
言語	日本語、英語の2言語
電源	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5（リチウムイオン充電池：付属）×1個 ACアダプター EH-62A（別売）
撮影可能コマ数（電池寿命）※	約200コマ（EN-EL5使用時）
寸法（幅×高さ×奥行き）	約114×83×99 mm（突起部除く）
質量	約460 g（バッテリー、SDカード除く）
動作環境	
使用温度	0～40 ℃
使用湿度	85 %以下（結露しないこと）

- 仕様中のデータは、すべて常温（25 ℃）、リチャージャブルバッテリー EN-EL5をフル充電で使用時のものです。

※ 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2) ℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［**NORMAL**］、画像サイズ［**12M 4000×3000**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動します。

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	DC 3.7 V、1100 mAh
使用温度	0～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約36×54×8 mm（突起部除く）
質量	約30 g（端子カバーを除く）

バッテリーチャージャー MH-61

定格入力	AC 100–240 V、50/60 Hz、0.12–0.08 A
定格入力容量	11–16 VA
定格出力	DC 4.2 V、950 mA
適応充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL5
充電時間	約2時間（残量のない状態からの充電時間）
使用温度	0～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約67×26×67 mm（突起部除く）
電源コード	長さ約1.8 m、日本国内専用AC 100 V 対応
質量	約70 g（電源コードを除く）

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.2：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かしたプリント出力を得られます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

索引

マーク・英数字

ア

カ

付録

サ

タ

付録

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社ホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：　　年　月　日

お買い上げ日：　　年　月　日

製品名：　　シリアル番号：

フリガナ
お名前：

連絡先ご住所：□自宅　□会社

〒

TEL:

FAX:

ご使用のパソコンの機種名：

メモリー容量：　　ハードディスクの空き容量：

OS のバージョン：　　ご使用のインターフェースカード名：

その他接続している周辺機器名：

ご使用のアプリケーションソフト名：

ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：

問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度：
（おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

<ニコンカスタマーサポートセンター>

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

☎ 0570-02-8000
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間:9:30〜18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日)
携帯電話、PHS、IP電話等をご使用の場合は、(03)5977-7033におかけください。
FAXでのご相談は、(03)5977-7499 におかけください。

修理サービスのご案内

修理サービスのご案内を下記URLにて行っております。
インターネットを利用して修理の申し込みができます。
「修理見積もり」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/support/repair/

<インターネットをご利用できない方の修理品送り先>
(株)ニコン イメージング ジャパン 修理センター
〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26 電話:(045)500-3050
営業時間:9:30〜17:30(土、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業など弊社定休日を除く毎日)

- 修理センターではご来所の方の窓口がございません。送付のみの対応となりますのでご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan
FX9B02(10)
6MM68310-02